Lotem 800 Quantum

User Guide

ユーザーガイド

C0289

www.creo.com

※注　本文中に「Scitex」または「CreoScitex」で表記されている社名は、2002年1月以降「Ｃｒｅｏ」に社名変更しております。ご了承くださいますようお願い致します。

著作権

Copyright © 2001 by Creo Products Inc. All Rights Reserved.

CreoScitexはCreo Products Inc.の主要な事業部です。

著作権法により明示的に許可される場合を除き、CreoScitexから事前に許可書を得ずに本書の全部または一部を複製、再配布、出版および商用目的に利用することは、禁止されています。許可を受けて著作権物を複製、再配布、出版する場合は、著者の職権、商標の説明文、著作権についての注意書に対する追加、削除を行わないでください。

本書の文章と図版は、説明と図示のみを目的としたものです。その基になる仕様は、予告なしに変更されることがあります。Creo Products Inc.は、本書に対し随時、予告なしに変更を加える権利を保有します。Creo Products Inc.およびその子会社は、本書に於ける技術上および編集上の誤謬または遺漏、および本書または当該製品の使用に伴う偶然、必然、間接、直接の損害(使用不能、データの消失または変化、遅延、収益または貯蓄の損失、その他)について、一切の責任を負いません。

Creo Products Inc.から書面による許諾を受けることなく、本書の一部または全部を複製すること、検索システムに保管すること、送信することは、その形態および方法(電気、機械、複写、記録、その他)に関わりなく、禁止されています。

本書は、アドビシステムズ社のPDF (Portable Document Format)形式でも配布されています。本書をPDFファイルから複製することは許可されていますが、その場合は著作権についての注意書を含め、必ず全体を複製してください。

商標

CreoScitexとCreoScitexのロゴ、本書に記載されたCreoScitexの製品とサービスの名称は、Creo Products Inc.の商標です。

Acrobat、Acrobatのロゴ、Adobe、Adobe Font Downloader、Adobe Illustrator、Adobe Photoshop、PDF、PostScriptは、Adobe Systems Incorporatedの登録商標です。

その他のブランドと商品の名称は、当該各社の商標または登録商標です。

FCC準拠

本書に記載のCreoScitex製機器は、FCC (米連邦通信委員会)の定めるクラスAのコンピュータ機器に対する許容条件につき、所定の審査のうえ、FCC-15章の規制内容に適合するものとして認定されています。本機を住宅地でご利用になると、ラジオおよびテレビでの受信にかなりの電波干渉を引き起こすことがあります。こうした障害が起きた場合は、お客様ご自身のご負担により、適切な処置を講じられますようお願い申し上げます。

免責事項

この製品、ソフトウェア、サービスは、現状および利用可能な形態で提供されるものです。お客様との契約で明示されている場合を除き、Creo Products Inc.とCreoScitex(総称して「Creo」と言います)は、明示と黙示を問わず如何なる保証(販売の可能性、特定の用途に対する適性、権利侵害に対する安全性についての黙示的な保証を含みますが、これに限定されません)も拒絶します。

お客様は、Creo Products Inc.またはCreoScitex(総称して「Creo」と言います)が以下の(1)～(5)に起因する直接、間接、偶然、必然、特殊、一般の損害(減益、信用の失墜、使用不能、データの消失、その他無形の損失を含みますが、これに限定されません)について、仮にCreoがそのような損失の可能性があることを忠告されていた場合も、一切の責任を負わないことを理解し、またこれに同意するものとします。

(1) この製品またはサービスの利用または利用不能

(2) 購入した製品、商品、データ、ソフトウェア、情報、サービスから派生する代替の商品とサービスの調達費用

(3) お客様の製品、ソフトウェア、データの不当な入手または改竄

(4) 第三者の言動

(5) この製品、ソフトウェア、サービスに関連するその他の事由または物品

特許

本製品は、以下に示す米国特許のうち、1ないし数件の対象となっています。

4456924	5247352	5412737	5592309	5764381	5969872	6107011
4500919	5283140	5420702	5594556	5771794	5973801	6112663
4558302	5291273	5420722	5600448	5785309	5986819	6115056
5049901	5296935	5459505	5608822	5813346	5995475	6121996
5079721	5313278	5473733	5615282	5818498	5996499	6130702
5103407	5323248	5481379	5625766	5854883	5998067	6134393
5111308	5325217	5488906	5636330	5861904	6003442	6136509
5113249	5331439	5497252	5649220	5861992	6014471	6147789
5122871	5333064	5508828	5650076	5864651	6016752	6158345
5124547	5339176	5509561	5652804	5875288	6031932	6159659
5132723	5355446	5517359	5691823	5894342	6043865	6164637
5150225	5359451	5519852	5691828	5900981	6060208	
5153769	5359458	5526143	5699174	5934196	6063528	
5155782	5367360	5532728	5699740	5942137	6063546	
5157516	5367388	5561691	5708736	5946426	6072518	
5208818	5384648	5568595	5713287	5947028	6090529	
5208888	5384899	5576754	5739819	5958647	6096461	
5247174	5412491	5579115	5742743	5966504	6098544	

詳細については、弊社ウェブサイトhttp://www.creoscitex.co.jp/でご確認ください。

399Z1P905A

目次

本書の使用方法 vii
- 本書の表記方法 ix
  - 記号 ix
  - 用語 ix
  - マーク x
- PDF ドキュメント xi

1 はじめに 1
- 概要 2
- フロント側 3
- リア側 4
- システム構成例 5
- 通信とデータフロー 6

2 基本操作 7
- 電源の ON/OFF 8
- Brisque でのログイン、ログアウト、シャットダウン 10
  - ログイン 10
  - ログアウト 11
  - シャットダウン 12
  - リセット 12

3 PC コントローラモニタ 13
- 概要 14
- ユーザーインターフェイス 15
- ステータスインジケータ 16
- オペレーションメニュー 17
  - [Cassette Setup]メニュー 17
  - [Routine Functions]メニュー 17
  - [Utilities]メニュー 20
  - [Setting]メニュー 22
  - <Stop>ボタン 23
- オンラインマシンビュー 24

4 プレートのハンドリング 27
メディアの設定 28
シングルカセットの使用方法 31
カセットの引出し 31
プレートの装填 32
カセットの挿入 35
オフラインカセットの設定 38
プレート各部のサイズ 40

5 Brisqueからの設定とキャリブレーション 43
機器設定を開く 44
[Output Devices Handling]ウィンドウ 44
本機の設定 48
本機のオペレーション 54
プレスフォーマット 58
アプリケーションの起動 58
カスタムプレスフォーマットの作成 59
プレスフォーマットの変更 63
プレスフォーマットの削除 64
Excurveによるキャリブレーション 65
テスト露光 66
Excurveの作成 70
テーブルでの数値入力 73
グラフの表示 74
カーブの滑らかさの調整 76
Excurveのチェック 76
Excurveの自動定期検証 78
Excurveの変更 78
Excurveをワークフローにリンクする 79
補助のキャリブレーションパラメータ 84
カスタムテストパターンの指定 85
トーンリプロダクション 86
アプリケーションの起動 87
トーンリプロダクションカーブの作成 87
カーブの数値指定 92
特色を[Seps]リストボックスに追加する 93
グラフの表示 94
カーブの滑らかさの調整 96
グラビア印刷向けのカーブ作成 96
トーンリプロダクションカーブの変更 97
トーンリプロダクションカーブの削除 98

6 Brisqueからのジョブ処理 99
折丁エレメントの見当合わせ 102
表と裏のプレビュー 102
ジョブとテンプレートのリンク 106
Plate Exposeパラメータの設定 112
プレート出力方向の設定 121
Storeパラメータの設定 123
ジョブチケットの登録 127
緊急のプレートリメーク 130
ジョブの長期保管 135

A メンテナンス 137
合紙の処分 138
パンチかすの処分 140
ドアをマニュアルで開く 141
詰まったプレートの取出し 143
センタリング/パンチング時のプレート詰まり 143
ロード時のプレート詰まり 144
アンロード時のプレート詰まり 145

索引 147

本書の使用方法

本書の表記方法 ix
PDF ドキュメント xi

本書では、Lotem 800 Quantumプレートセッタのご利用を開始するにあたり、必要な基本情報をお知らせします。

本書は以下の2部構成になっています。

第１部：Lotem 800 Quantumプレートセッタと PC コントローラ

- 第１章『はじめに』
- 第２章『基本操作』
- 第３章『PCコントローラモニタ』
- 第４章『プレートのハンドリング』

第２部：Brisqueからの操作

- 第５章『Brisqueからの設定とキャリブレーション』
- 第６章『Brisqueからのジョブ処理』

Brisqueの機能詳細については、『Brisque User Guide』の最新版でご確認ください。



Lotem 800 Quantumを Prinergyと併用する場合は、『Prinergy to Lotem 800 Quantum Connectivity User Guide』も併せてお読みください。

本機を安全にご利用いただくうえでの注意事項については、『Lotem 800 Quantum Safety Precautions for User』でご確認ください。

本書の表記方法

ここでは、本書で用いている記号、用語、マークについて説明します。

記号

ウィンドウの名前やメニューの項目は、[ ]で示してあります。

ボタンの名前やキーボードのキーは、< >で示してあります。

画面に表示されるメッセージとユーザーが入力する情報は、「 」で示してあります。

関連文書や参照箇所は、☞ と『 』で示してあります。

用語

クリック	画面上の任意の項目にカーソルを合わせ、マウスボタンを素早く押して放すことです。通常はマウスの左ボタンを使用します。
選択する	チェックマーク(×)が消えているチェックボックスにカーソルを合わせ、左クリックしてチェックマークをつけることです。または、画面上の任意の項目にカーソルを合わせ、左クリックすることです。
選択を解除する	チェックマーク(×)がついているチェックボックスにカーソルを合わせ、左クリックしてチェックマークを消すことです。
タイプする	情報をタイプすることで、<Enter>キーあるいは<Return>キーを押すことは含みません。
ダブルクリック	画面上の任意の項目にカーソルを合わせ、マウスボタンを素早く2度、押して放すことです。

入力する	情報をタイプして<Enter>キーまたは<Return>キーを押すことです。
右クリック	カーソルがアプリケーションウィンドウ内にあるときにマウスの右ボタンをクリックすると、ショートカットメニューが表示されます。このメニューの使用方法については、Windowsのマニュアルを参照してください。

マーク



危険： 人員の死傷および財物の損壊に直結し得る緊急の危険性を示します。



警告： 人員の死傷および財物の損壊を招く恐れがある潜在的な危険性を示します。



注意： 人員の軽傷または財物の損壊を招く恐れがある潜在的な危険性を示します。安全面で問題のある行為について注意をお願いすることもあります。



重要： 処理の遅れや、機能性・信頼性・品質の低下を招く可能性がある事項です。



参考： 本文中の説明に対する補足的な情報です。



ヒント： 作業をより簡単に、素早く行うためのヒントです。



関連情報が他の資料に掲載されていることを示します。

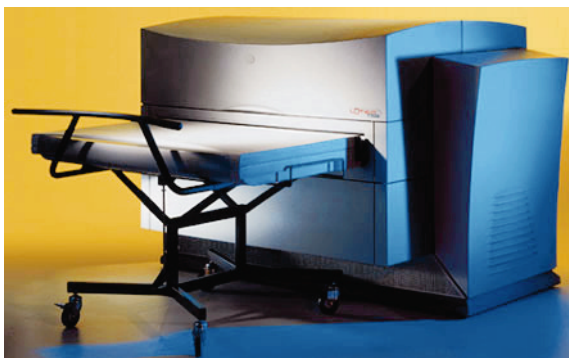
PDFドキュメント

本書にはPDF版もあります。PDFは製品に同梱のドキュメントCDに入っています。

PDF版の表示や印刷には、Adobe Acrobat Readerを使用します。本書を印刷する際には、著作権の注意書や免責事項を含めて必ず全体を印刷してください。

1 はじめに

概要 2
フロント側 3
リア側 4
システム構成例 5
通信とデータフロー 6



概要

Lotem 800 Quantumは、卓越した品質と生産性(菊全判プレートを毎時25枚出力)を兼ね備えた最先端のプレートセッタです。安定性に優れたSQUAREspotサーマルイメージング方式によって、一貫したプレート出力を実現します。また、高度に自動化されたインラインパンチシステムが正確で再現性の高いパンチを提供、印刷機での完璧な見当合わせを可能にします。Brisqueからコントロールする本機は、妥協を許さない印刷会社のシンボルと言えるでしょう。Lotem 800 Quantumは究極のCTP機として、印刷機の連続稼働に向けた能率的な生産へのあらゆるニーズに応えます。

Creoはサーマルイメージングのパイオニアであり、他社の追随を許さない性能と品質によってCTP方式のディファクトスタンダードとなっています。SQUAREspotサーマルイメージングは、プレート感度や自現機ケミカルなどの変動要因と無関係に、常に一定したプレート出力を維持します。この正確な工程管理によって、高信頼性のFMスクリーニングと混入物のない画像が実現しました。

オペレータが立ち会わなくても、全自動の工程で印刷可能なプレートが作成できます。プレートは合紙除去の後、カセットから自動的にロードします。次に、DFEで選択した印刷機プロファイルに従い、カスタム仕様のインラインパンチシステムがプレートに穿孔します。その後は、プレートを自動的にドラムにマウントしてイメージングを行い、インライン自現機(オプショナル)へ直送します。

プレートのサイズは、457×381 mm (18×15 inch)～1,130×905 mm (44.5×35.4 inch)をサポートしています。

Lotem 800 Quantumは以下の2通りの構成でご利用いただけます。

- シングルカセット
- デュアルロードカセット ☞『Using the Lotem 800V with the DLC - Version 1.0』

Lotem 800 Quantumのフロントエンドは、Brisque Imposeアプリケーション V4です。Brisque Imposeの標準機能に加え、刷版の緊急再出力や面付けの両面プレビューなど、CTPユーザー向けの特殊機能を提供します。また本機は、PostScript、EPSF、欧文PDF、TIFF-IT、Scitex CT/LWを初めとする、多彩な標準デジタルファイル形式のデータに対応しています。

フロント側



図1：本機のフロント側(シングルカセット構成)

参考： 上図はシングルカセット構成です。デュアルロードカセット(DLC)構成は若干異なります。

シングルカセット：露光するプレートを収納します。

カセット挿入口：カセット内のプレートをここから本体内にロードします。

フロントドア：ドアの開閉はPCコントローラモニタでコントロールします。

右側ドア：この内側にエレクトロニックボックスとPCコントローラがあります。

排紙ドア：この内側に排紙ユニットがあります。たまった合紙を取り除くときに使用します(本体の左側にも同型のドアがあります)。

パンチコンテナ用の穴：この内側にパンチコンテナがあります。パンチかすを取り除くときに使用します(フロントパネルの下にあり、本体の底から使用するようになっています。上図では見えません)。

リア側



図2：本機のリア側

リアドア：ドアの開閉はPCコントローラモニタでコントロールします。

プレート排出口：処理済みのプレートをここからアンロードします。

ON/OFFプッシュボタン：本機の電源をON/OFFします。

主電源サーキットブレーカー：本機の電源をONにする前に、主電源サーキットブレーカーがON (1)になっていることを確認してください。主電源からの完全遮断は、主電源サーキットブレーカーのOFF (0)によって行います。

システム構成例

本機を用いた一般的なシステム構成例を以下に示します。

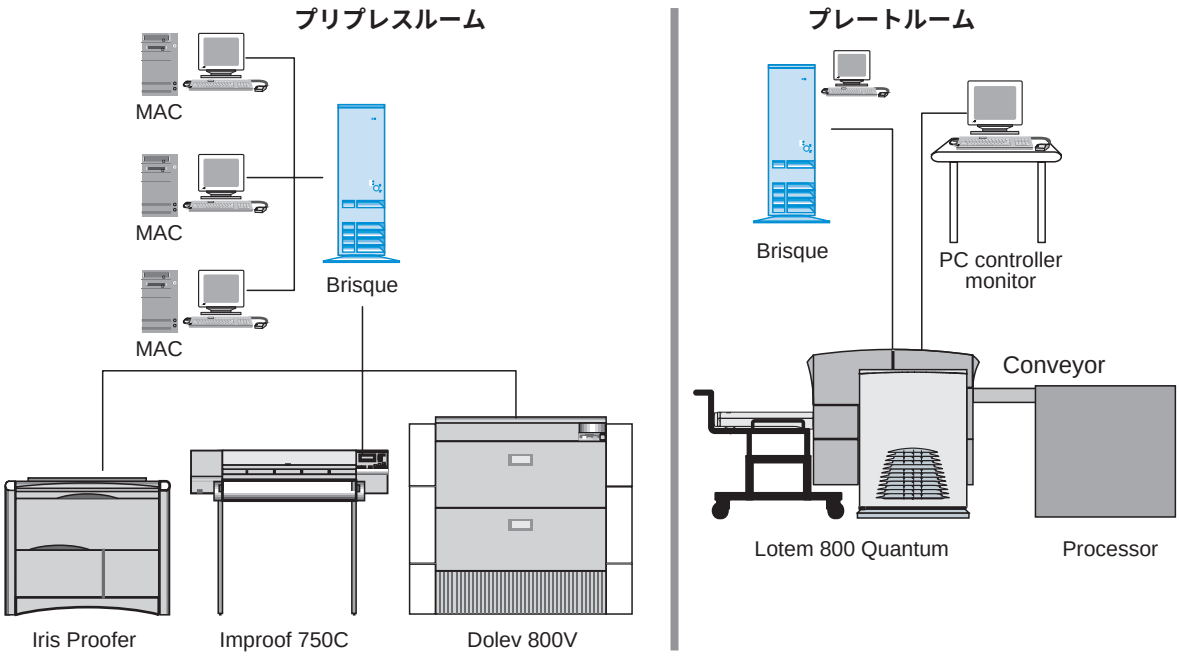


図3：システム構成例

通常、プレートルームには以下のような機器を設置します。

- Lotem 800 Quantumプレートセッタ
- PCコントローラモニタ：本機を制御するPCコントローラのユーザーインターフェイス
- Brisque：本機で処理するジョブはBrisqueから転送します。
- コンベア：アンロードしたプレートを自動現像機へ送ります。
- 自動現像機：露光後に現像が必要なプレート用です(他社製)。

参考： プレートスタッカー(アンロードされたプレートを一時保管するために使用)とプレヒートオーブン(予熱が必要なプレートに使用)は他社製となりますので、上図から除いてあります。

通信とデータフロー

本機で処理するジョブデータは、PCコントローラに接続したBrisqueから転送します。本機とBrisque間の通信とデータフローを下図に示します。

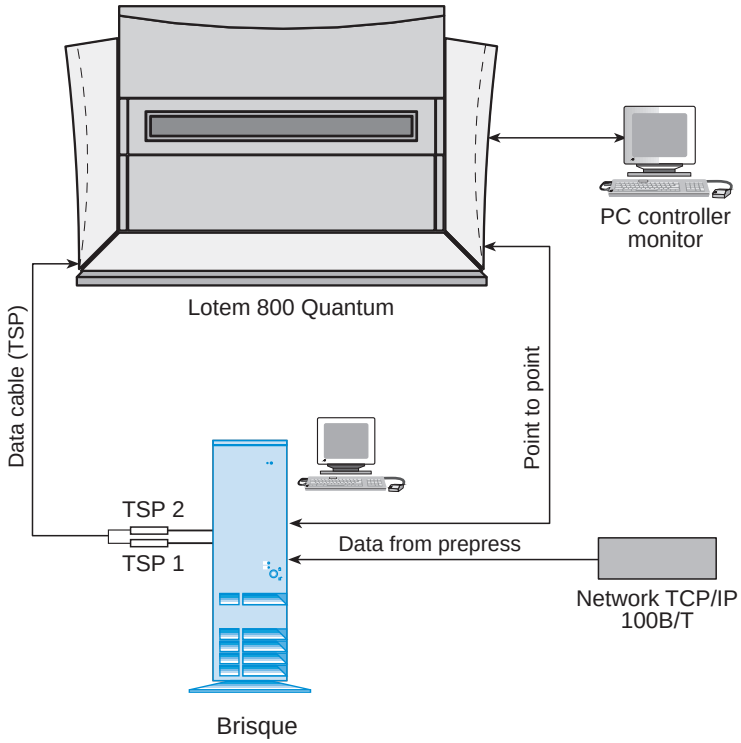
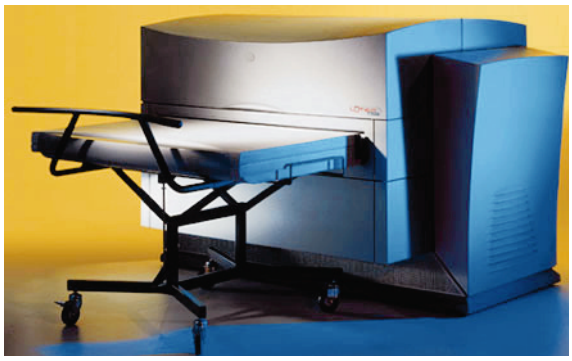


図4：本機とBrisque間の通信とデータフロー

2 基本操作

電源の ON/OFF.....8
Brisque でのログイン、ログアウト、シャットダウン 10



電源のON/OFF

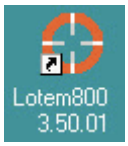
本機の電源をONにするには...

1. 気圧ユニット内の気圧ゲージ(下図参照)をチェックします。気圧が6 ATM (88 psi)であることを確認してください。



図5：気圧ユニット

2. 主電源サーキットブレーカーがON (1)になっていることを確認します。☞ P. 4の図2
3. リアパネルの左右のON/OFFプッシュボタンを押して、両方とも点灯させます。☞ P. 4の図2
4. PCコントローラモニタのON/OFFプッシュボタンを押します。

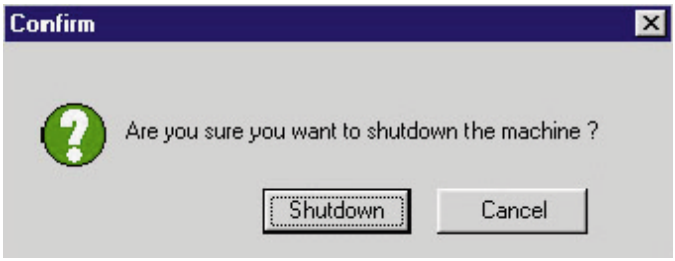


5. Windowsが立ち上がったらパスワード「scitex」を入力し、PCデスクトップ上の[Lotem 800]アイコンをダブルクリックします。
6. Brisqueの電源をONにします。☞ P. 10『ログイン』

本機の電源をOFFにするには...



1. PCコントローラモニタで<Routine Functions>をクリックします。
2. [Routine Functions]メニューで<Shut Down>をクリックします。
3. 「Confirm」メッセージで<Shut Down>をクリックします。



4. Windowsの[Start]メニューで[Shut Down]を選択してコンピュータの電源をOFFにします。
5. 「コンピュータの電源を切る準備ができました」という意味のメッセージが表示されたら、本機リアパネルのON/OFFプッシュボタンを押します。

Brisqueでのログイン、ログアウト、シャットダウン

ここでは、Brisqueでのログイン、ログアウト、シャットダウンの手順を説明します。



警告：シャットダウンは不用意に行わないでください。

ログイン

Brisqueの電源をONにすると、システムが自動的に立ち上がります。それから少したって「console login」プロンプトが表示されます。

システムにログインするには...

1. 「console login」プロンプトで「cdesci」とタイプして<Enter>を押します。
2. もう一度<Enter>を押してログインの確認をします。それから少したつと、Creo Serversのロード中であることを知らせるメッセージが表示されます。
3. ログインの間にプロセス/アプリケーションが正しくロードされなかったり、ボードが認識されない場合は、エラーの内容を知らせるメッセージが表示されます。この場合でも、<Continue logon>をクリックしてログインを続行してください。ただし、エラーの内容をシステム管理者に連絡して、適切な処置をとってください。

ログインが完了すると、Brisqueのデスクトップにラウンチパッドが開きます。

ログアウト

Brisqueからログアウトすると、デスクトップの状態(開いているウィンドウなど)がそのまま保存されます。次回にログインするときには、デスクトップが今回の状態で再表示されます。ログアウトは、作業が終わってもコンピュータの電源をOFFにする必要がない場合に、行ってください。



警告： コンピュータの電源をOFFにする場合は、必ずログアウトとシャットダウンを行ってからOFFにしてください。

システムからログアウトするには...

1. **Brisqueのラウンチパッドで、<Exit>をダブルクリックします。**
2. **<Continue logout>をクリックして続行します。ログアウトが完了すると、「console login」プロンプトが表示されます。**
   ログアウトを中止する場合は、<Cancel logout>をクリックしてください。



参考： シャットダウンを行う前にコンピュータの電源をOFFにしないでください。☞ P. 12『シャットダウン』

別法

1. **Brisqueのデスクトップを右クリックするか、ラウンチパッドのコントロールボックスを左/右クリックします。ポップアップメニューが開きます。**
2. **<Log out>をクリックします。[Logout Confirmation]ウィンドウが開きます。**
3. **<Continue logout>をクリックして続行します。ログアウトが完了すると、「console login」プロンプトが表示されます。**
   ログアウトを中止する場合は、<Cancel logout>をクリックしてください。



重要： ログアウトの途中でフリーズした場合は、システムをリセットしてください。☞ P. 12『リセット』

シャットダウン

データおよびシステムファイルが壊れる可能性がありますので、システムを正しくシャットダウンするまでは、Brisqueの電源をOFFにしないでください。



参考： システムの処理スピードが落ちた場合は、メンテナンスのためシャットダウンを行っても結構です。ただし、一週間に何度もシャットダウンすることは避けてください。

システムをシャットダウンするには...

1. **ログアウトを実行します。**☞ P. 11『ログアウト』
2. **「console login」プロンプトで「shutdown」とタイプします。これでシャットダウンの処理が開始します。**



参考： ハードウェアによっては、「Halt Completed」プロンプトの表示後、コンピュータの電源をOFFにできる状態になります。それ以外の場合は、自動的に電源がOFFになります。



警告： ログアウトとシャットダウンを正しく行わずに、Brisqueの電源をOFFにすることは避けてください。このようにすると、データおよびシステムファイルが壊れることがあります。

リセット

システムがフリーズした場合は、以下のようにしてリセットします。

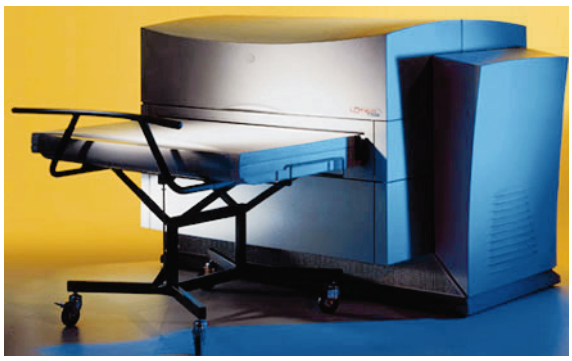
1. **<Ctrl>+<Alt>+<Backspace>を同時に押して「console login」プロンプトに戻ります。**
2. **通常と同様にログインを実行します。**☞ P. 10『ログイン』



参考： システムをリセットすると、フリーズの前に行った変更は無効になります。リセットの後に変更をやり直してください。

3 PC コントローラモニタ

概要 14
ユーザーインターフェイス 15
ステータスインジケータ 16
オペレーションメニュー 17
オンラインマシンビュー 24



概要

PCコントローラモニタはLotem 800 Quantumのユーザーインターフェイスで、本機の動作監視、状態通知、情報表示を行います。本機の制御は内蔵のPCコントローラが行います。PCコントローラモニタは、本機の近くのデスクに乗せてください。☞ P. 5の図3　本機で処理するジョブデータは、PCコントローラに接続したBrisqueから転送します。☞ P. 6の図4



図6：PCコントローラモニタ

参考：上図のプレートセッタはDLC構成です。

ユーザーインターフェイス

PCコントローラモニタのデスクトップでPCコントローラアプリケーションを起動すると、各種インジケータ、ボタン、ポップアップメニュー、ウィンドウなどが表示されます。

ユーザーインターフェイスはワークフローに即しており、コンピュータの知識がそれほどなくても簡単に扱うことができます。主な特長は以下の通りです。

- ステータスインジケータの色分けによって、本機の状態が随時表示されます。例えば、PCコントローラモニタから離れて露光済みのプレートをチェック中に、本機で問題が起きた場合でも、[ATTENTION]インジケータでわかります。
- 画面上の各項目は、遠くからでも見える大きさになっています。PCコントローラモニタから離れた場所にいても、本機の状態を確認することができます。
- モニタ画面は下図のように、機能別に各部に分かれています。

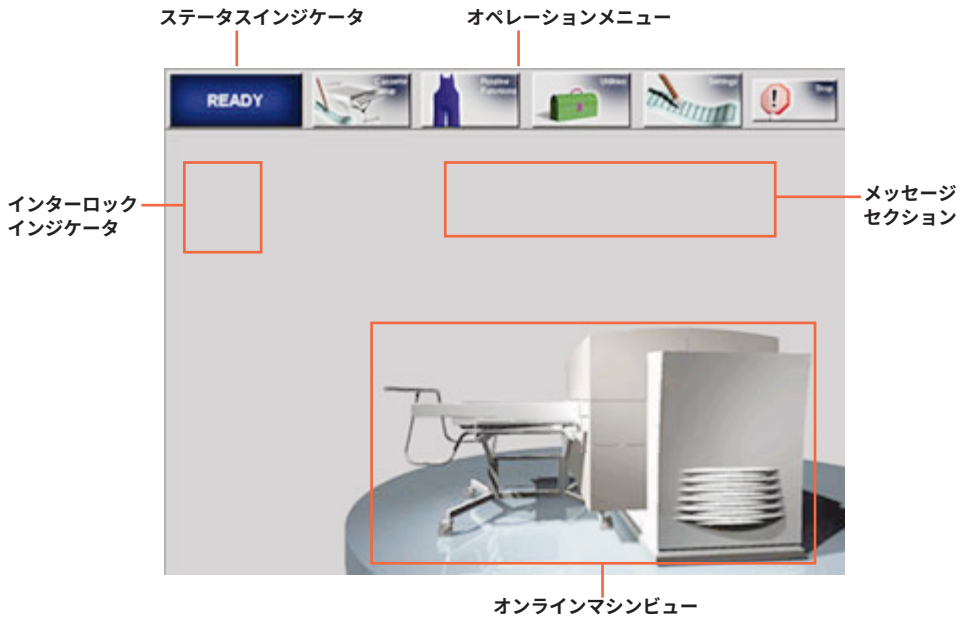


図7：メインウィンドウの各部(プレートセッタはDLC構成)

ステータスインジケータ

ステータスインジケータは色分けされて大きめに表示されるので、PCコントローラモニタから離れていても本機の状態がわかります。例えば、[WORKING]から[ATTENTION]に切り替わった場合なども、一目で確認することができます。



START UP (緑)：本機が起動中です。すべてのコンポーネントがホームポジションへ移動します。



OFF-LINE (灰色)：[READY]と同様ですが、プレートの露光やキャリブレーションテストは行えません。これ以外の機能は使用可能です。[START UP]の後とオペレーションメニューで<Stop>をクリックした後は、自動的に[OFF-LINE]になります。本機をREADYモードにするには、[Routine Functions]メニューで<On Line>をクリックします。



READY (青)：本機は処理が可能でオンラインになっています。この状態でプレートをロードして露光を始めることができます。



WORKING (緑)：本機でジョブの処理が進行中です。この状態で、後続のジョブをBrisqueから転送したり、DLCではメイントレーから本体へ給版している間に、次のジョブに使用するプレートをアッパートレーに装填することができます。



ATTENTION (赤)：本機が処理を中止しており、ユーザーによる処置が必要です。あるいは、点検を要する問題が起きています。メッセージセクションに状態別のメッセージが表示されます。問題を解決するまで、通常の処理は再開しません。



SERVICE (紫)：ドアが開いているか、パネルが定位置にありません(メインウィンドウにインターロックインジケータが表示されます)。あるいは、本機が保守作業中であることを示しています。ドアが開いている場合は、オンラインマシンビューにその状態が表示されます。

オペレーションメニュー

オペレーションメニューは、ステータスインジケータの右側にあります。PCコントローラアプリケーションの使用中は、ここで各種の操作オプションを選択します。<Cassette Setup> <Routine Functions> <Utilities> <Preferences>をクリックすると、各々のメニューが開きます。この他に<Stop>もあります。

[Cassette Setup]メニュー



[Cassette Setup]メニューを開くには、<Cassette Setup>をクリックします。

カセット/アッパートレーを抜いたり、プレートを着脱するには、以下のオプションを選択します。

Release Cassette



シングルカセットにプレートを装填するときに使用します。

カセットを抜く手順について ☞ P. 32『プレートの装填』

Release Tray (DLC専用)



このボタンは、シングルカセット構成では使用できません。

[Routine Functions]メニュー



[Routine Functions]メニューを開くには、<Routine Functions>をクリックします。このメニューには、本機に対して日常的に実施する操作オプションが入っています。

Open Front Door



1. クリックしてフロントドアを開きます。
2. ドアのロックが30秒間外れます。この間にドアを少し押し込んでください。
3. その後、ドアを持ち上げて全開にします。

フロントドアが開くとセーフティインターロックがONになり、本機の各部(ドラムモーターやレーザーシステム)が作動しなくなります。ステータスインジケータは[SERVICE] (紫)に切り替わります。その下には、インターロックインジケータと開いているドアの名前が表示されます。

参考： フロントドアを開くには、オンラインマシンビューでクリックする方法もあります。

Open Rear Door



ドアを開く手順は[Open Front Door]と同様です。

Loading System



[Unload Media]や[Restart Plate State]などのオプションが入っているサブメニューを開きます。

Unload Media



このボタンは、メディアがドラム上にあり本機が停止中に限り、選択可能になります。

通常は、メディアの処理後に自動的にアンロードするので、このオプションを使用する必要はありません。ただし、メディアが正しくロードされない場合や、露光が中断した場合は、このボタンでメディアをドラムからアンロードします。

Restart Plate State



エラーメッセージが表示された場合は、このボタンで本機のステータスをリセットすることができます。

参考： このボタンをクリックする前に、ドラムにプレートが巻き付いていないことを確認してください。

Offline Cassette



シングルカセット構成では、複数のカセットがある場合のみ使用します。現在使用中でないカセットのプレートの設定が行えます。

参考： 本機にはカセットが1つ付属していますが、追加のカセットを別途にご購入いただけます。

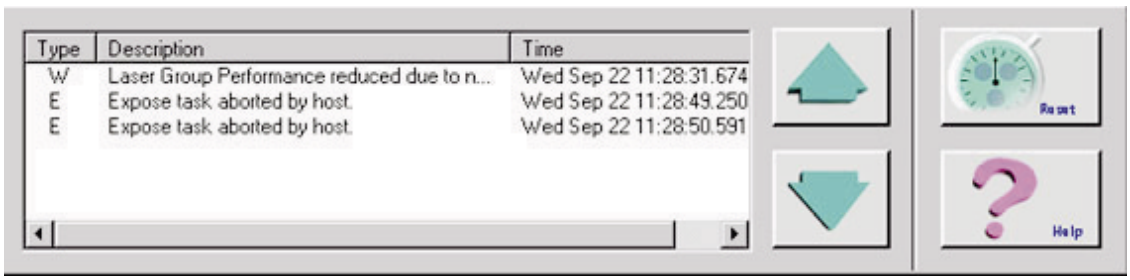
<Offline Cassette>をクリックすると、[Offline Cassette]ウィンドウが開きます。☞ P. 38『オフラインカセットの設定』

Messages



メッセージウィンドウを開きたいときにクリックします。本機の作動中に問題が起きると、メッセージウィンドウにエラーメッセージが記録されます。このウィンドウはエラーが記録されると自動的に開き、現在のエラーメッセージをハイライト表示します。また、今回の処理中に記録された全エラーメッセージを一覧表示します。

参考： メッセージの全文を見るには、[Description]の見出しの縦線をダブルクリックするか、ドラッグで欄の幅を変えてください。



メッセージウィンドウには4つのボタンがあります。

上下の矢印：上下にスクロールして前後のメッセージを表示させます。

Reset：エラーメッセージの原因になった問題を解決した後、本機をリセットします。☞以下の『Reset Machine』

Help：オンラインヘルプを呼び出します。

Reset Machine



停止の原因となった問題を解決した後など、本機をリセットしたいときにクリックします。そうすると、[Reset Confirm]メッセージで「Yes」か「No」の確認を求めてきます。ステータスインジケータは、問題発生前の状態に応じて[READY] [OFF-LINE] [WORKING]のどれかに戻ります。

参考：[Reset Machine]の機能は、メッセージウィンドウの<Reset>と同じです。

On Line



ステータスインジケータが[OFF-LINE]のときは、プレートの露光が行えません。プレートを露光するには、<On Line>をクリックしてステータスインジケータを[READY]にしてください。

Shut Down



PCコントローラアプリケーションを終了します。☞ P. 8『電源のON/OFF』

[Utilities]メニュー



[Utilities]メニューを開くには、<Utilities>をクリックします。ここには以下のオプションがあります。

Expose Params



露光関連のマシンパラメータがある[Expose Info]ウィンドウを開きます。このウィンドウは、露光前でも露光中でも開くことができます。

Log Files



[Machine task]リスト、2つの[Log message]ウィンドウ(点検用)、[Expose queue]リスト(Brisqueからのデータに基づく)を開きます。

Machine Info



PCコントローラアプリケーションのバージョン情報のウィンドウを開きます。

Hardware



本機のハードウェア情報のウィンドウを開きます。

Diagnostics

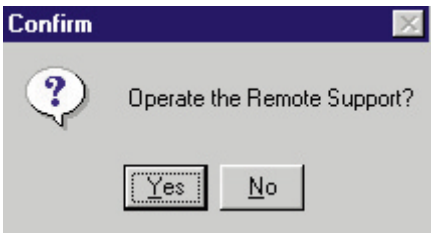


現バージョンでは使用できません。

Remote Support



このボタンをクリックすると下図のダイアログが開きます。

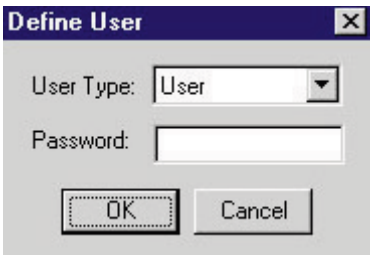


サービスエンジニアによるリモートサポートを受けるには、<Yes>をクリックします。

Users



ユーザーのタイプを指定します(アプリケーションと環境の一部の設定は、サービスおよびR&D専用となっています)。<Users>をクリックすると、[Define User]ダイアログが開きます。[User Type]でユーザーのタイプ([User] [Service] [R&D])を選択し、パスワードを入力して<OK>をクリックします。



[Setting]メニュー



[Setting]メニューを開くには、<Setting>をクリックします。ここには以下のオプションがあります。

Media Definitions



新しく使用するプレートのタイプは、[Media Definitions]で設定します(プレートの設定はロードの前に行ってください)。この他に、既存プレートのパラメータ変更、不要になったプレートの削除も行えます。☞ P. 28『メディアの設定』

Cassette Configuration



新しいシングルカセットを挿入したときに自動認識させることができます。カセットにデフォルトの名前の代わりに、ユーザー指定の名前をつけることもできます。詳細について ☞ P. 35『カセットの挿入』

参考： 新しいカセットの初回使用時には[Cassette Configuration]ウィンドウが自動的に開きます。それ以外のときにこのウィンドウを開くには、[Settings]メニューで[Cassette Configuration]を選択します。

Preferences



環境の設定は[Preferences]で行います。[Preferences]ウィンドウでは、単位と言語を選択することができます。

Units：プレートのサイズや厚さなどの表示・設定用の単位を選択します。[cm]か[inch]を選択してください。

Language：ユーザーインターフェイスの表示言語を選択します。現在は[English]のみです。

<Stop>ボタン



緊急停止が必要な場合は、オペレーションメニューで<Stop>をクリックします。これでドラムその他の機械動作が直ちに停止し、プレートは現在位置に止まります。

オンラインマシンビュー

ここには本機のイメージが表示され、現在の状況をシミュレーション画面でチェックすることができます。オンラインマシンビューの主な特長について以下に説明します。

オペレーションの表示

本機がWORKINGモードのときは、現在のオペレーションを確認することができます。プレートがドラムへロードされ、ドラムが回転するところを見ることができます。作業の進行状況は円グラフで表示されます。

カセット内容の表示

シングルカセット構成では、カセットの内容(プレートのタイプと枚数)がオンラインマシンビューのカセットの上部に常時表示されます。



図8：カセット内容の表示

インターロックインジケータ

セーフティインターロックがONになると、ステータスインジケータが[SERVICE] (紫)に切り替わります。その下には、インターロックインジケータと当該箇所の名前が表示されます。この場合は、ドアが開いていることや、パネルが定位置にないことが考えられます。

セーフティインターロックの詳細について☞『Lotem 800 Quantum Safety Precautions for User』

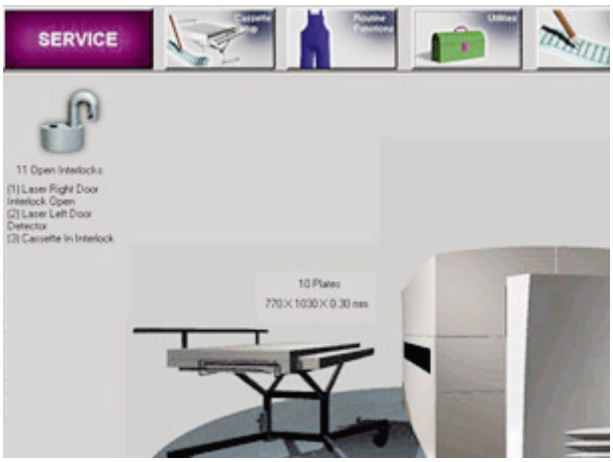


図9： SERVICEモードのメインウィンドウ(カセットが外れているためインターロックインジケータを表示)

ATTENTION

本機がATTENTIONモードのときは、問題の原因(プレートの詰まりなど)を確認することができます。

インタラクティブな操作

カセットをクリックしてプレートセッタから抜くことができます(シングルカセットとDLCのみ)。フロントドアとリアドアをクリックして開くこともできます。これは、[Routine Functions]メニューで<Open Front Door>と<Open Rear Door>をクリックするのと同じです。

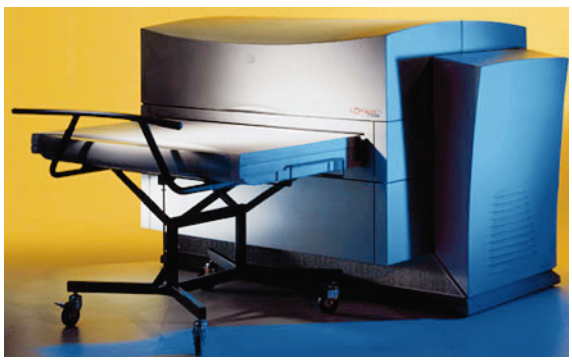
参考： カーソルをドアまたはカセットに合わせると、P. 26の図のように緑色に変わります。



図10：カーソルをフロントドアに合わせると緑色に変わる

4 プレートのハンドリング

メディアの設定 28
シングルカセットの使用方法 31
オフラインカセットの設定 38
プレート各部のサイズ 40



メディアの設定

本機で出力するプレートの設定は、プレートを装填する前に行います。

Lotem 800 Quantum用のプレート仕様

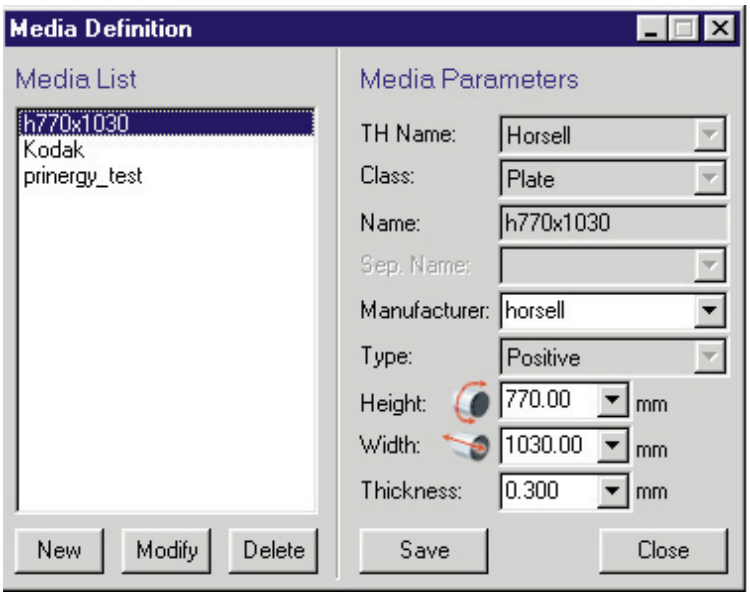
サイズ	最小サイズ	最大サイズ
Lotem 800 Quantum	457×381 mm	1,130×905 mm

枚数	0.2 mmプレート	0.3 mmプレート
シングルカセット	130	100
DLCメイントレー	105	60
DLCアッパートレー	15	10

プレートの設定をするには...



1. **[Settings]メニューの[Media Definitions]をクリックして[Media Definitions]ウィンドウを開きます。このウィンドウの[Media List]には、設定済みのプレートその他のメディアが表示されます。**



参考：上図のプレート名は一例であり、特定メーカーの製品を推奨するものではありません。本機はメーカー各社の様々な仕様のプレートに対応しています。

2. <New>をクリックします。
3. [TH Name]ボックスでTH名を選択します。
4. [Class]ボックスでメディアのタイプを選択します。
5. [Name]ボックスにプレート名を入力します。プレートのタイプかユーザーの名前を入力するとよいでしょう。
6. [Manufacturer]ポップアップリストでプレートのメーカーを選択するか、別途に名前を入力します。
7. [Type]ボックスには、TH名に従って[Positive]または[Negative]が表示されます。
8. [Height]ポップアップリストでプレートの高さを選択するか、別途にmm単位で入力します。
9. [Width]ポップアップリストでプレートの幅を選択するか、別途にmm単位で入力します。
10. [Thickness]ボックスにプレートの厚さを入力します。厚さはプレートのパッケージに記載されているはずですが、マイクロメーターで測定することをお勧めします。厚さの範囲は0.15～0.3 mmです。
11. <Save>をクリックします。新規プレートの名前が[Media List]に加わります。
12. 他に使用するプレートについても上記の手順を繰り返します。



参考： プレートの名前は、[Current Cassette]ウィンドウ(P. 37)と[Offline Cassette]ウィンドウ(P. 39)にも表示されます。

既存プレートのパラメータを変更するには...

1. [Media List]で目的のプレートを選択します。そのパラメータが[Media Parameters]セクションに表示されます。
2. プレートの各パラメータを変更します。
3. <Save>をクリックしてパラメータを保存します。

プレートを削除するには...

1. [Media List]でプレートを選択して<Delete>をクリックします。



参考： プレートの名前を変更するには、<Delete>でプレートを削除してから<New>で設定をやり直してください。

シングルカセットの使用方法

本機への給版には以下の準備が必要です。

- カセットをプレートセッタから引き出す
- プレートをカセットに装填する
- カセットをプレートセッタに挿入する

カセットの引出し

以下のような場合は、カセットを引き出します。

- 本体内のカセットに同じプレートを追加する
- 本体内のカセットに違うプレートを装填する
- 別のカセットを挿入する



参考： 上部ドアが両方とも閉じていてローディングシステムが静止していれば、カセット挿入口のピンはカセットを挿入するまで押下状態になっています。

1. メインオペレーションメニューで<Cassette Setup>をクリックし、メニューで[Release Cassette]を選択します。あるいは、オンラインマシンビューでカセットをクリックします。これで、カセットが本機から外れた状態で表示されます。



図11：メインウィンドウでのカセット表示

2. カセットを本体内に固定するピンが外れます(機械音が聞こえます)。
3. カセットの前に立ち、足でキャスター固定用のストッパーを外します。
4. カセットを引き出します。
5. プレートがある場所までカセットを移動させます。

プレートの装填

プレートをカセットに装填するには... ☞ P. 34の図

参考： カセットをプレートのそばに置いてください。プレートの束は重いので、運搬にはカセットを使用してください。

1. **カセットの両側のフックを外してカバーを開きます。**
2. **左右と奥のプレートガイドのノブを緩めてガイドをずらします。**
3. **それまでと違うサイズのプレートを装填する場合は、左右のガイドを外側にずらします。一方を動かすと、もう一方も自動的に動きます。奥のガイドは後方に押します。**



参考：それまでと同寸のプレートを追加する場合は、プレートに傷がつくのを防ぐため、左右のガイドだけをずらしてください。

4. **一番下のプレートに傷がつくのを防ぐため、その下に厚紙を敷きます。プレートの包装に厚紙が入っていない場合は、プレートと同寸の厚紙を敷いてください。**
5. **プレートの膜面を下向きにして、厚紙を敷いたカセットに入れます。**



参考：プレートの端は鋭利なので、保護用の手袋を着用してください。これでプレートに指紋がつくのを防ぐこともできます。

6. **プレートを何組かまとめて装填する場合は、その間から厚紙を抜きます。厚紙は一番下だけに敷いてください。**
7. **左右のガイドを内側に寄せ、先端の丸い部分をプレートの端に軽く触れさせます(強く押し付けないでください)。プレートは左右のガイドで自動的にセンタリングされ、ドラムに装填するときに中心線に揃うようになっています。**



参考：プレートを一度に多数(26枚以上)装填する場合は、手で揃えてからガイドを寄せてください。

8. **奥のガイドを寄せてプレートの端に軽く触れさせます。**
9. **3個のプレートガイドのノブを締めます。**
10. **カセットのカバーを閉じて両側のフックをはめます。**

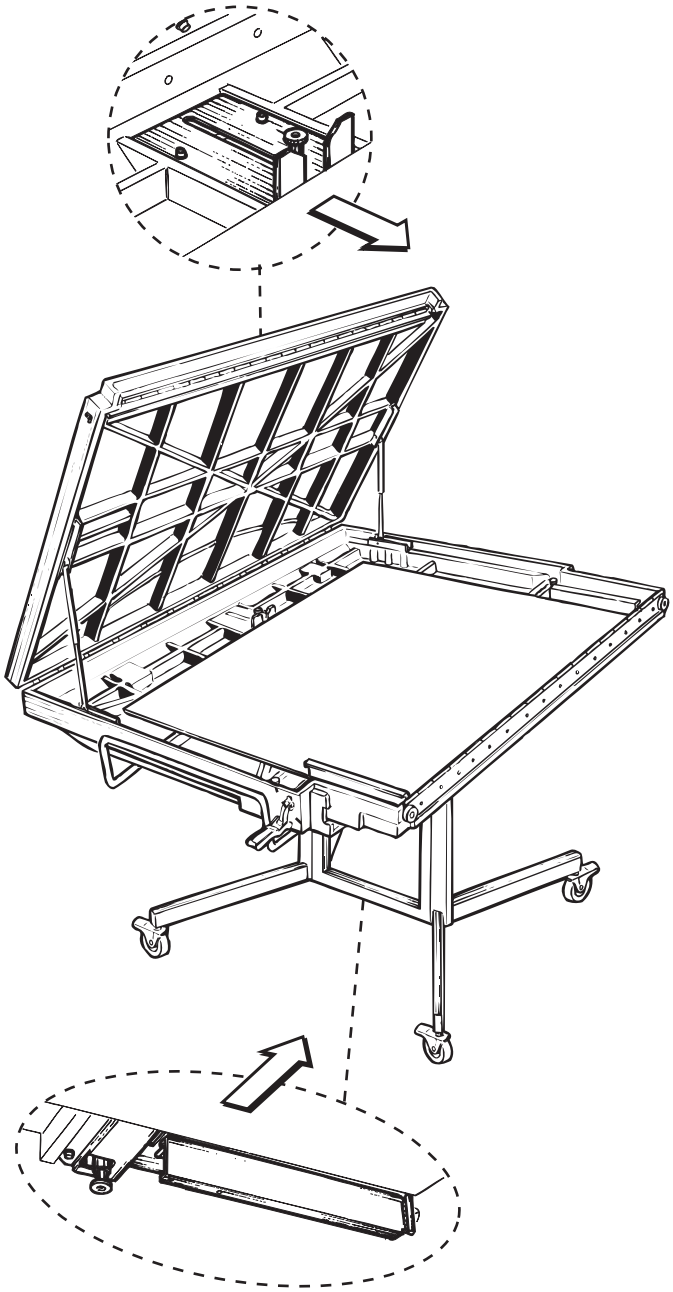


図12：プレートをカセットに装填する

カセットの挿入

プレートをカセットに装填したら、カセットを本機に挿入します。

1. メインウィンドウを見て、オンラインマシンビューのカセットが本機から外れていること、本機がSERVICEモードになっていること、インターロックインジケータがカセットインターロック開を表示していることを確認します。☞ P. 32の図　カセット挿入口のピンは、押下状態でなければなりません(ピンが飛び出していると、カセットが挿入できません)。
2. カセットを挿入口の前まで移動させます。
3. カセットを挿入口に対して斜めにして、カセットの一方の角を挿入口に押し込みます。次に、カセットを挿入口と平行にしてもう一方の角を押し込みます。

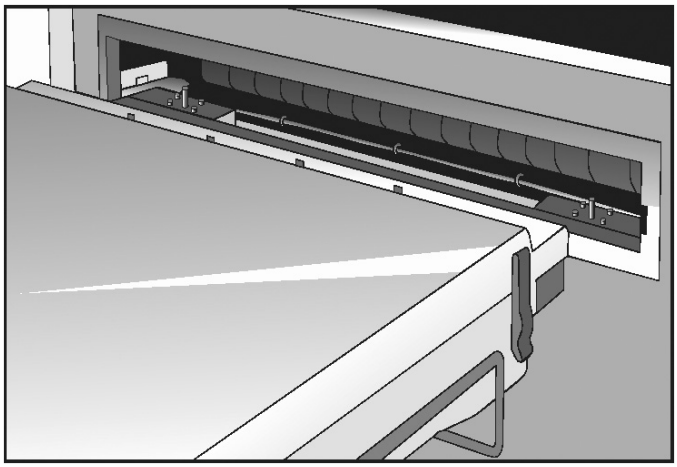


図13：カセットの挿入

参考：名前を入力しないとデフォルトの名前がつきます。

4. 機械音がしてカセットが固定されるまで、挿入口に押し込みます。正しく固定されているのを確認するため、カセットが引き出せるか試してください。これでカセットが出てきた場合は、確実に押し込んで固定してください。

カセットの初回使用時は...

このカセットを初めて使用する場合は、[Cassette Configuration]ウィンドウが自動的に開きます。

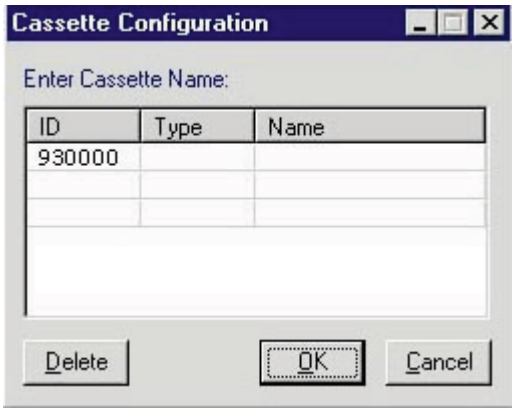


図14：カセット挿入時の[Cassette Configuration]ウィンドウ

5. **[Type]ポップアップリストでカセットのタイプを選択します。シングルカセットについては[Single Load]を選択してください。**

参考：もう1つのオプションは[DLC]です。☞『Using the Lotem 800V with the DLC - Version 1.0』

6. **[Name]ボックスにカセットの名前を入力します。**
これでウィンドウは下図のようになります。

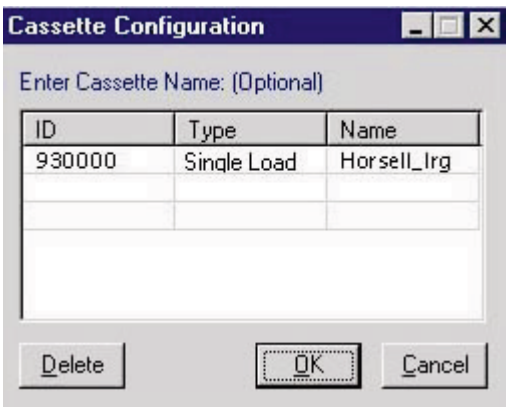


図15：設定済みの[Cassette Configuration]ウィンドウ

7. **<OK>で設定を確定します。**

[Current Cassette]ウィンドウが開きます。

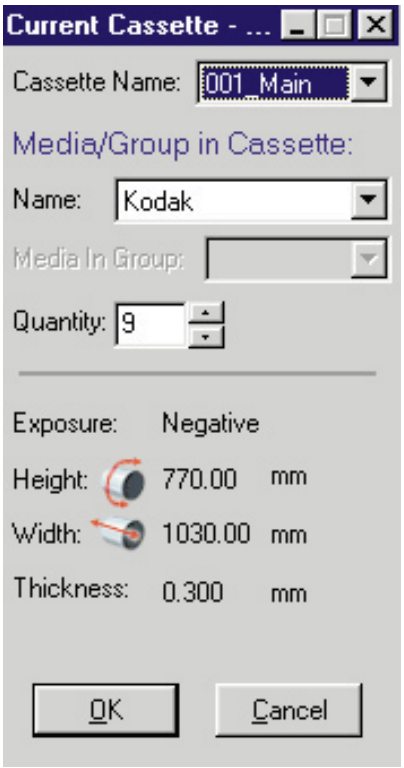


図16：[Current Cassette]ウィンドウ

参考：上図のプレート名は一例であり、特定メーカーの製品を推奨するものではありません。本機はメーカー各社の様々な仕様のプレートに対応しています。

[Cassette Name]ボックスには、[Cassette Configuration]ウィンドウで設定した名前が自動的に表示されます。[Offline Cassette]オプションを使用する場合は、以下の10へ進んでください。そうでない場合は、以下の8へ進んでください。

参考：[Offline Cassette]についてはP. 38で説明します。

8. [Name]ボックスでプレートの名前を選択します。ここには、[Media Definitions]ウィンドウで設定済みのプレートの名前が表示されます。このウィンドウには、選択したプレートのポジ/ネガ、サイズ、厚さが表示されます。
9. [Quantity]ボックスにカセット内のプレートの枚数を入力します。
10. [Current Cassette]ウィンドウの設定が正しければ、<OK>で確定します。これでプレートの露光を始めることができます。

カセットの2回目以降の使用時は...

初回使用時に[Cassette Configuration]ウィンドウでカセットの設定をしてあれば、このウィンドウは開きません。その代わりに、[Current Cassette]ウィンドウが自動的に開きます。



参考： [Cassette Configuration]ウィンドウは、[Settings]メニューからいつでも開くことができます。

オフラインカセットの設定

[Offline Cassette]はシングルカセットとDLCの両方に対応しており、現在使用中でないカセットのプレートの設定が行えます。本機にはカセットが1つ付属していますが、追加のカセットを別途にご購入いただけます。



参考： シングルカセット構成では、複数のカセットがある場合のみ以下の手順を実施します。

カセット(トレー)の挿入前にオフラインでプレートの設定をすれば、時間の節約になります。第一カセットのプレートの処理中に、第二カセットのプレートの設定をすることができます。その後に第二カセットを挿入すると、[Current Cassette]ウィンドウが開いて該当するプレートの名前と枚数が表示されます。

オフラインカセットの設定をするには...



1. **[Routine Functions]メニューで[Offline Cassette]を選択します。[Offline Cassette]ウィンドウが開きます。**

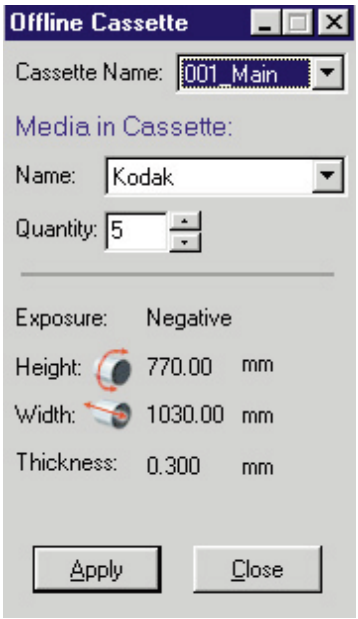


図17：[Offline Cassette]ウィンドウ(DLCメイン用)

2. **[Cassette Name]ポップアップリストでカセットの名前を選択します。デフォルトの名前を変更した場合は、ここに新しい名前が表示されます。そうでない場合は、デフォルトの名前が表示されます。上図の「001_Main」(および「002_Main」は、シングルカセットを指しています。「003_Main」はDLCのメイントレーを指します。**



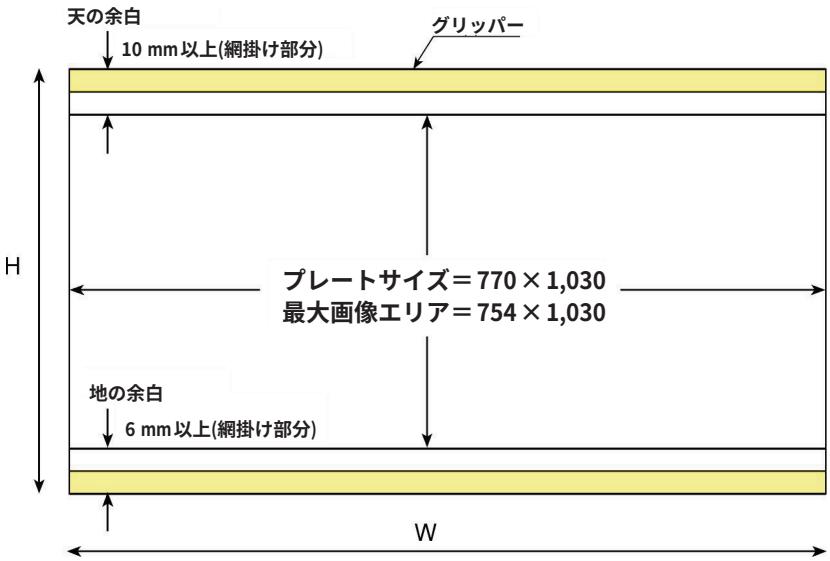
参考： デフォルトの名前を変更するには、[Cassette Configuration]ウィンドウを使用します。☞ P. 36

3. [Name]ボックスでプレートの名前を選択します。ここには、[Media Definitions]ウィンドウで設定済みのプレートの名前が表示されます。このウィンドウには、選択したプレートのパラメータが表示されます。
4. [Quantity]ボックスにカセット内のプレートの枚数を入力します。
5. <Apply>をクリックして設定を確定します。

このシングルカセットを本機に挿入すると、[Current Cassette]ウィンドウが上記の設定で自動的に開きます。

プレート各部のサイズ

ここでは、プレート各部のサイズと画像エリアについて説明します。この2つを理解しておくことで、プレート出力の条件、印刷機とプレートの条件、画像のオフセットを正しく設定することができます。



天の余白：Brisqueのプレスフォーマットで設定します。プレートの上端から画像エリアまでの間隔です。「くわえしろ」と言うこともあります。

地の余白：Brisqueのプレスフォーマットで設定します。プレートの下端から画像エリアまでの間隔です。

H (Height)：プレートの高さ(ドラム円周方向)

W (Width)：プレートの幅(ドラム軸方向)

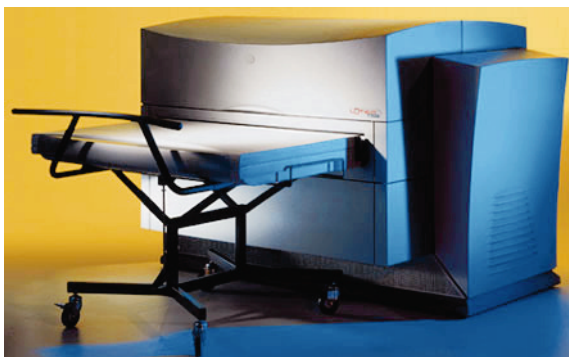
ポジプレートのネガ露光では、プレート膜面の上下に露光されない部分が焼き残ります。焼き残り部分の大きさは、以下のようになります。

- **天の余白：幅はプレートと同一、高さは10 mm以内。**
- **地の余白：幅はプレートと同一、高さは6 mm以内。**

画像の位置合わせは、Brisqueの[Plate Expose]ウィンドウの[Alignment]によって決定されます。詳細について☞ P. 112『Plate Exposeパラメータの設定』

5 Brisqueからの設定とキャリブレーション

機器設定を開く 44
本機の設定 48
本機のオペレーション 54
プレスフォーマット 58
Excurveによるキャリブレーション 65
トーンリプロダクション 86



機器設定を開く

本機の設定、デバイスパラメータの表示、プレスフォーマットの設定、Excurveキャリブレーションとトーンリプロダクションには、Brisqueの[Output Devices Handling]ウィンドウを使用します。

[Output Devices Handling]ウィンドウを開くには...

1. Brisqueのラウンチパッドで[Setup]パネルを開きます。

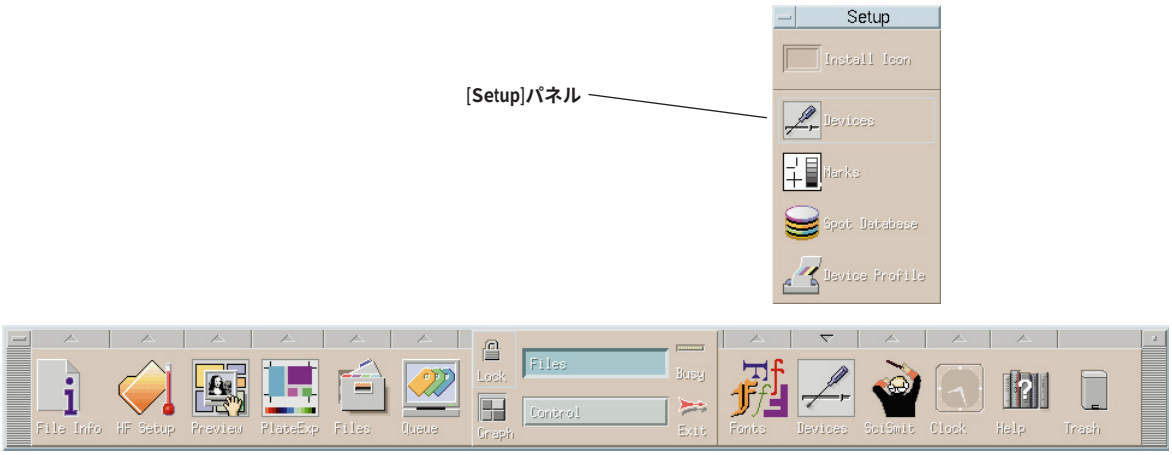


図18：[Setup]パネル

2. [Devices]アイコンをダブルクリックして[Output Devices Handling]ウィンドウを開きます。

[Output Devices Handling]ウィンドウ

出力機の設定はすべてこのウィンドウで行います。新規の出力機の設定をすること、既存の出力機の設定を変更・削除すること、出力機への接続を再設定することができます。

このウィンドウには、出力機のグループ、ファミリー、機器設定、および各々の機器設定に対応するオペレーションが表示されます。一部の出力機に専用のオペレーションとすべてに汎用のオペレーションのどちらも、[Operations]セクションのボタンで実行することができます。

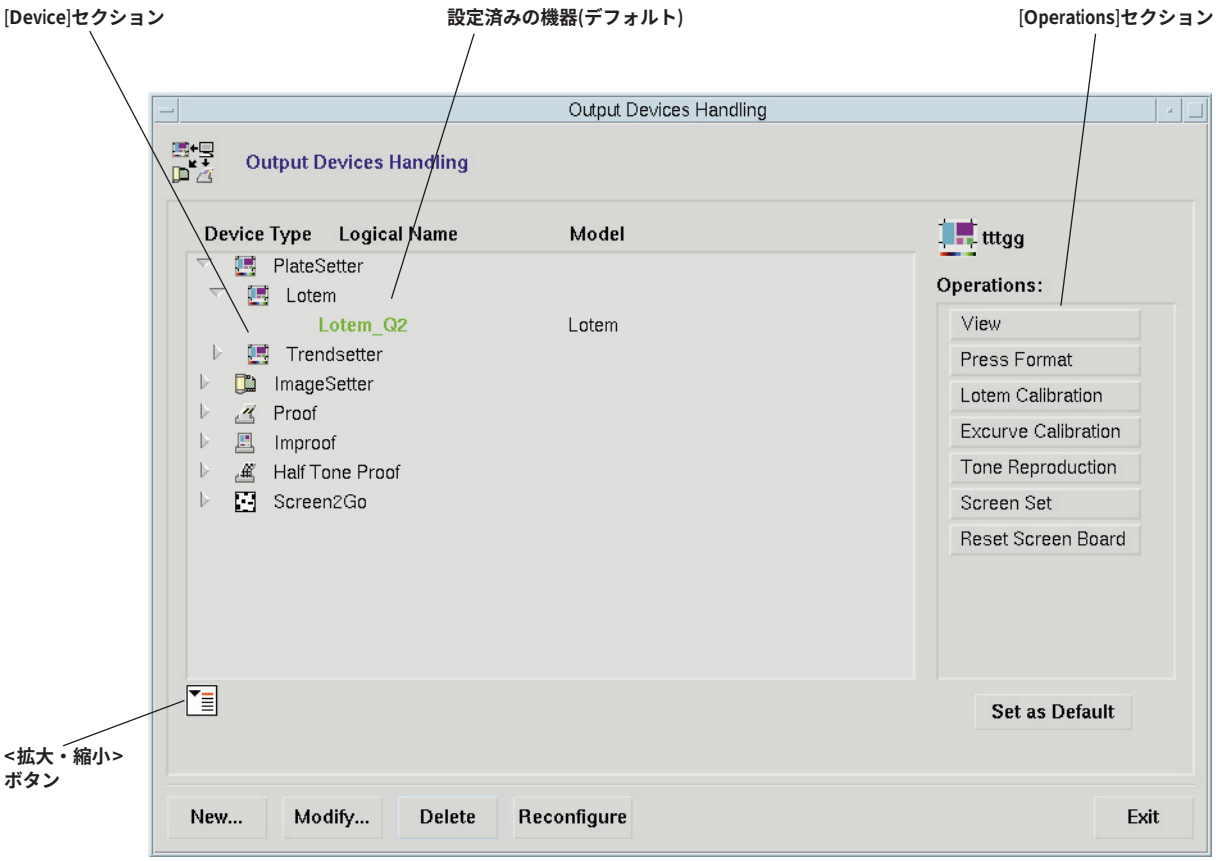


図19：[Output Devices Handling]ウィンドウ

項目	説明
[Device]セクション	このセクションには3つの欄があります。 Device Type：最上層にデバイスグループ([PlateSetter] [ImageSetter] [Proof] [Improof] [Half Tone Proof])が表示され、次の階層にデバイスファミリー([PlateSetter]グループならば[Lotem] [Trendsetter]、[Half Tone Proof]グループならば[Lotem Spectrum] [Trendsetter Spectrum] [Kodak])が表示されます。各階層の表示と非表示の切替えは、左側の三角で行います。 Logical Name：出力機の固有名称が表示されます。これを選択すると、[Operations]セクションで該当するオペレーションが選択可能になります。 Model：出力機の総称が表示されます。
<拡大・縮小>ボタン	[Device]セクションの階層の表示と非表示を一括して切り替えます。
New	新規の出力機の設定をするため[Device Wizard]を開きます。
Modify	既存の出力機の設定を変更するときにクリックします。
Delete	出力機の設定を削除します。

項目	説明
Reconfigure	出力機への接続を再設定します。オンラインモードの出力機への接続をやり直すには、<Reconfigure>をクリックします。そうすると、接続確認のメッセージまたは接続不能の警告が表示されます。出力機についての設定情報は、Brisqueのデータベースに記録されます。ただし、出力機の切断や異常は記録されず、そのことについての警告も表示されません。そのため、出力機の使用前には常に<Reconfigure>をクリックすることをお勧めします。
[Operations]セクション	出力機に対して可能なオペレーションが表示されます。各ボタンとも、機器設定を選択しないと使用できません。また、一部の出力機に専用のオペレーションとすべてに汎用のオペレーションがあります。
Set as Default	未使用
Exit	[Output Devices Handling]ウィンドウを閉じます。

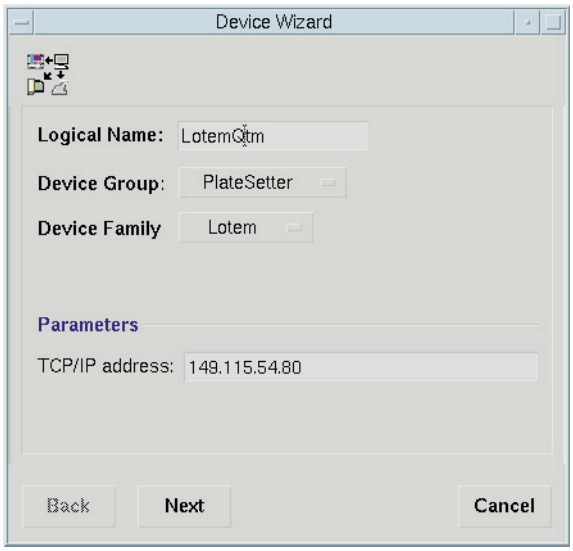
本機の設定

Lotem 800 Quantumが設定済みかどうかを確認するには...

1. [Output Devices Handling]ウィンドウで、[PlateSetter]アイコンの左側の矢印をクリックします。
2. [Lotem]アイコンの左側の矢印をクリックします。Lotemの設定がすんでいれば、設定済みの機器として表示されます。また、デフォルトのプレートセッタになっていれば、名前がグリーンで表示されます。

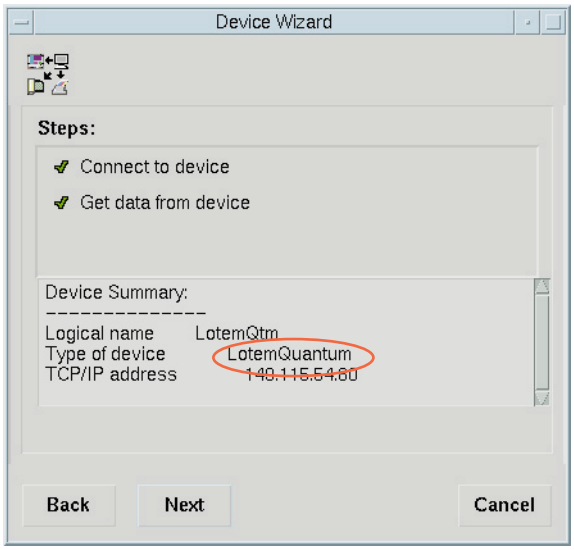
新しいLotem 800 Quantumの設定をするには...

1. [Output Devices Handling]ウィンドウで<New>をクリックします。下図のウィンドウが開きます。

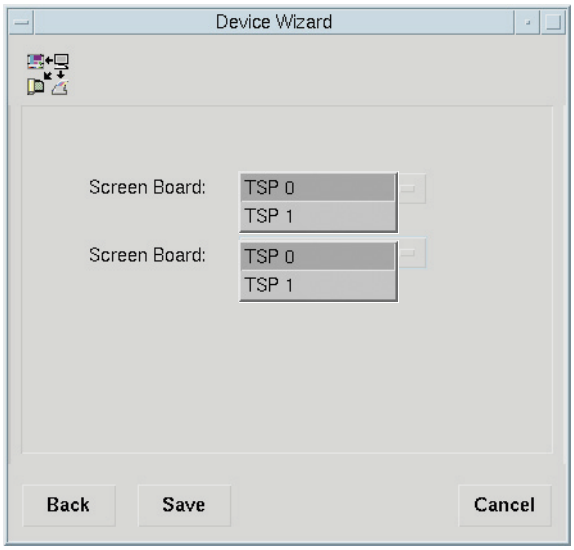


2. [Logical Name]ボックスに固有名称をタイプします。
3. [Device Group]リストボックスで[Platesetter]を選択します。これで、[Device Family]リストボックスの表示が[Lotem]になります。
4. [TCP/IP address]ボックスにアドレス(149.115.54.80など)をタイプします。

5. <Next>をクリックします。これで機器の要約が表示され、機器のタイプが「LotemQuantum」になります。



6. <Next>をクリックします。ウィンドウの表示が下図のようになります。

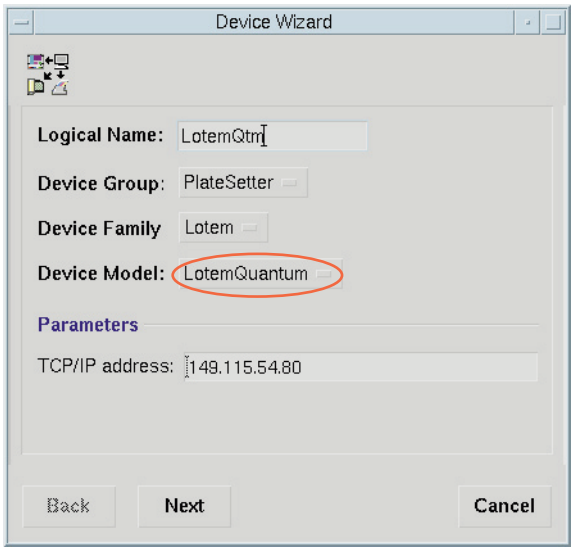


7. [Screen Board]の上で[TSP0]、下で[TSP1]を選択し(デフォルト)、<Save>で機器設定を保存します。接続が完了すると、確認のメッセージが数秒間表示されます。[Output Devices Handling]ウィンドウの[Lotem]アイコンの下には、[LotemQuantum]が表示されます。

参考：一方のTSPボードに問題がある場合は、もう一方の1枚だけで本機を稼働することができます。ただし、こうすると生産性が大幅に低下するので、なるべく2枚のTSPボードを使用してください。

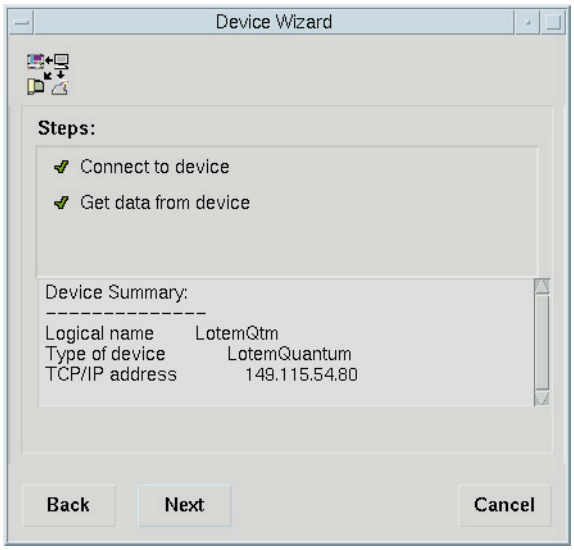
Lotem 800 Quantumの設定を変更するには...

1. [Output Devices Handling]ウィンドウで[LotemQuantum]を選択して<Modify>をクリックします。ウィンドウの表示が下図のようになります。[Device Model]には自動的に[LotemQuantum]が表示されます。

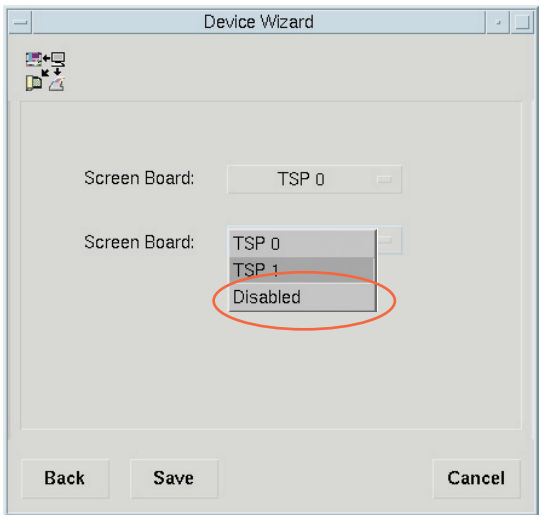


2. 必要に応じて[TCP/IP address]の設定を変更します。

3. <Next>をクリックします。ウィンドウの表示が下図のようになります。



4. <Next>をクリックします。ウィンドウの表示が下図のようになります。1枚のボードで本機を稼働する場合は、[Screen Board]リストボックスで[Disabled]を選択します。



5. <Save>で機器設定を保存します。更新が完了すると、確認のメッセージが数秒間表示されます。[Output Devices Handling]ウィンドウの[Lotem]アイコンの下には、変更後の[LotemQuantum]が表示されます。

Lotem 800 Quantumの設定を削除するには...

1. **[Output Devices Handling]ウィンドウで目的の機器設定を選択して<Delete>をクリックします。削除の確認を求めるダイアログが表示されます。**
2. **確認のダイアログで<Yes>をクリックします。その機器設定が[Output Devices Handling]ウィンドウから削除されます。**

Lotem 800 Quantumへの接続を再設定するには...

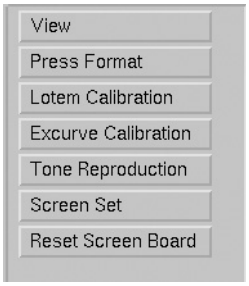


重要：前もってケーブル類が確実に接続されていることを確認してください。

1. **[Output Devices Handling]ウィンドウでLotemの機器設定を選択します。**
2. **<Reconfigure>をクリックします。これで本機からデータが読み込まれ、接続の検証が行われます。本機が再接続された場合は、確認のメッセージが数秒間表示されます。そうでない場合は、接続不能の警告が表示されます。**

本機のオペレーション

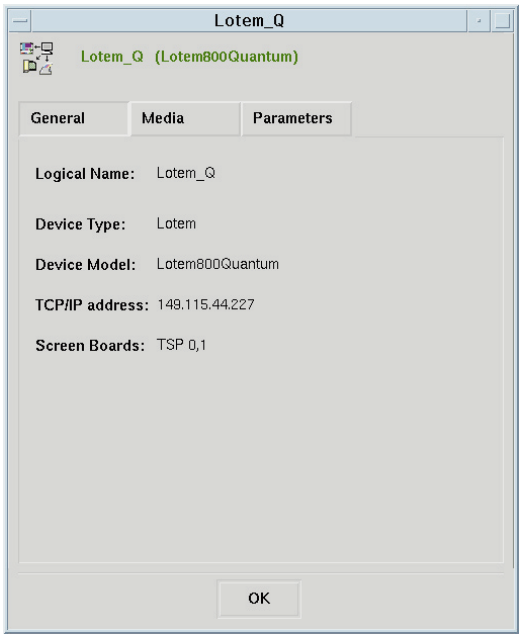
View



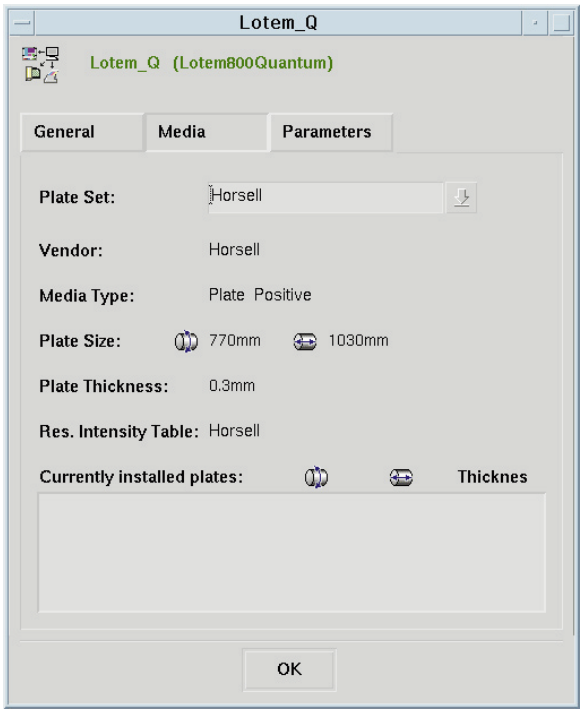
PCコントローラのデータベースに保存されたデバイスパラメータを確認することができます。

Lotemのパラメータを確認するには...

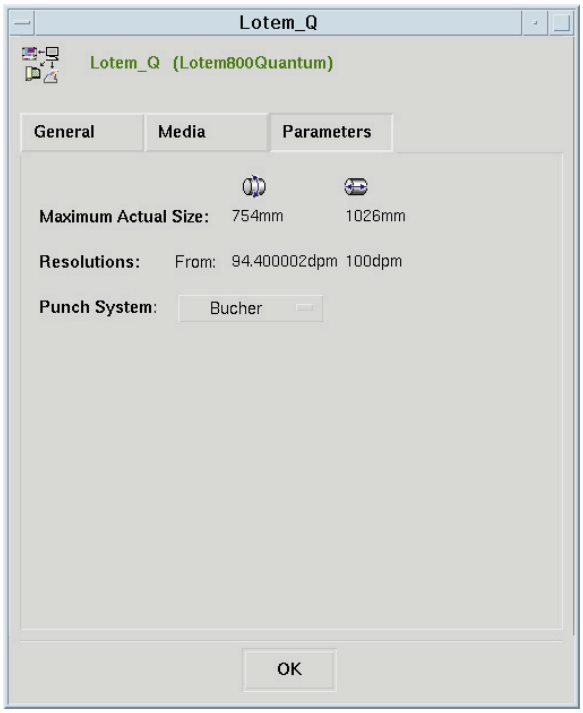
1. **<View>をクリックしてパラメータウィンドウを開きます。ここには3枚のタブがあります。**
2. **[General]タブを開きます。接続関連のパラメータが表示されます。**



3. [Media]タブを開きます。接続された機器内のプレートセットが表示されます。現在装填中のプレートのサイズと厚さは、[Currently installed plates]ボックスに表示されます。



4. [Parameters]タブを開きます。長さ、幅、解像度(60～140 dpm)、パンチシステムなど露光関連のパラメータが表示されます。



5. <OK>をクリックして終了します。

Press Format

☞ P. 58『プレスフォーマット』

Excurve Calibration

☞ P. 65『Excurveによるキャリブレーション』

Tone Reproduction

☞ P. 86『トーンリプロダクション』

Screen Set



☞『Brisque User Guide』の『Screening』の章

Reset Screen Board

露光のプロセスが何かの理由で中断した場合は、<Reset Screen Board>でスクリーンボード(TSPまたはVLSI)をリセットします。

<Reset Screen Board>はエラーに対処するためのオプションですので、プロセスが正常に進行しているときには使用しないでください。スクリーンボードをリセットすると、プロセスがストップして処理中のフィルム/プレートが使用不能になることがあります。また、システムがフリーズすることもありますので、その場合はステーションを再起動してください。

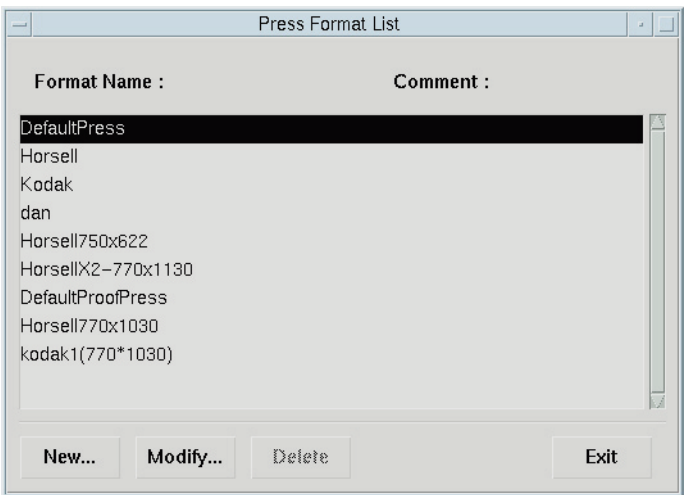
プレスフォーマット

プレスフォーマットは、プレートのサイズや厚さ、くわえしろ、パンチシステムなど、印刷機のプレート条件をまとめたものです。最終的に使用するプレートは、プレスフォーマットに設定されたパラメータに準拠することが必要です。

アプリケーションの起動

アプリケーションを起動するには...

1. Brisqueのラウンチパッドまたは[Setup]パネルで[Devices]アイコンをダブルクリックします。[Output Devices Handling]ウィンドウが開きます。
2. このウィンドウで[PlateSetter]の横の矢印をクリックし、次に[Lotem]の横の矢印をクリックします。Lotemの機器設定を選択します。これで該当するオペレーションが選択可能になります。
3. [Operations]セクションで<Press Format>をクリックします。[Press Format List]ウィンドウが開きます。

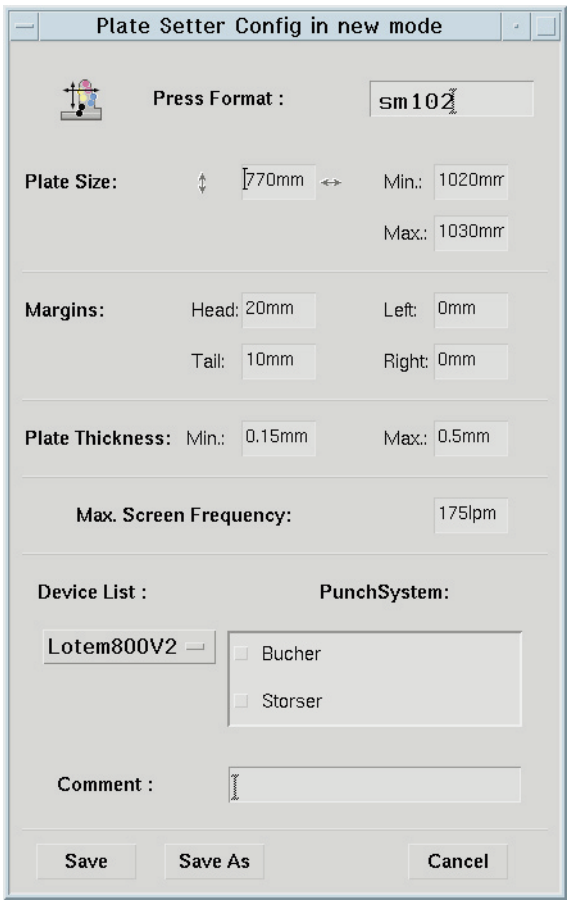


参考： Brisqueのデフォルトのプレスフォーマット「DefaultPress」と「DefaultProofPress」は、削除できません。

カスタムプレスフォーマットの作成

新規のプレスフォーマットを作成するには...

1. [Press Format List]ウィンドウで<New>をクリックします。[Plate Setter Config in new mode]ウィンドウが開きます。



項目	説明
Press Format	プレスフォーマットの名前です。
Plate Size	印刷機に装填可能なプレートのサイズを指定します。  (ドラム円周方向) プレートの高さを指定します。 ←→ (ドラム軸方向) プレートの最小および最大の幅を指定します。
Margins	Head/Tail プレート上で露光されない天地の余白です。これらは印刷機の条件によって決まります。 P. 40の図では、天の余白が10 mm、地の余白が6 mmになっています。 Left/Right プレート上で露光されない左右の余白を設定することができます。左右とも0 mm以上を任意に設定することができます。
Plate Thickness	印刷機の条件に合わせて、使用するプレートの厚さの最小値と最大値を指定します。 **参考：** 厚さの最大値は、PCコントローラデータベースに設定済みの厚さよりも大きくしないでください。この設定値を見るには、[Plate Set]アイコンをクリックします。

項目	説明
Max. Screen Frequency	このパラメータは現在のところ表示のみで、プレート出力には反映されません。
Device List	接続してある機器が表示されます。現在のところ、Brisqueに接続できるLotemは1台だけです。
Punch System	本機に装備されたパンチシステムのうちで稼働させるものを指定します。印刷機のパンチホールに合わせて指定してください。[Punch System]ボックスに表示されるパンチシステムは、最初にPCコントローラで設定したものです。☞『Lotem 800 Quantum Installation Guide』 **参考：**現在選択中のプレスフォーマットで直接プレート出力すると、ここで指定したパンチシステムが[Plate Expose]ウィンドウのデフォルトになります。
Comment	ここに追加したコメントは、[Press Format List]ウィンドウに表示されます。

2. [Press Format]ボックスに名前をタイプします。この名前は[Plate Expose]ウィンドウの[Press Format]リストに表示されます。



重要：記号「\ / : * ? " < > ¦」とスペースは使用しないでください。このような文字は自動的に下線(_)に置換されます。

3. 各ボックスでプレスフォーマットのパラメータを設定します。<Save>をクリックしてプレスフォーマットを保存します。このプレスフォーマットは[Press Format List]ウィンドウに表示されます。



参考：選択状態のプレスフォーマットのパラメータは、本機で設定したプレートのパラメータと一致していることが必要です。

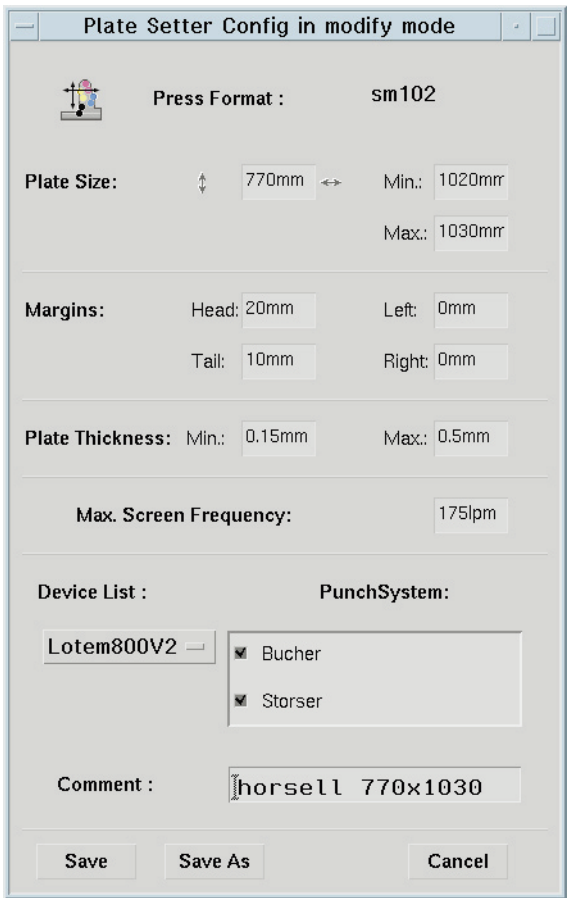


重要：[Plate Expose]ウィンドウの[Press Format]リストでは、適切なプレスフォーマットを選択してください。[Plate Set]リストには、指定のプレスフォーマットに合致するプレートがすべて表示されます。選択したプレスフォーマットとプレートセットの組み合わせが正しければ、名前が緑で表示されます。両者の組み合わせが間違っていると、名前が赤で表示されます。

プレスフォーマットの変更

プレスフォーマットのパラメータを変更するには...

1. **[Press Format List]ウィンドウでプレスフォーマットを選択して<Modify>をクリックします。下図のウィンドウが開きます。**



2. **プレスフォーマットのパラメータを変更します。**

参考：[Plate Expose]ウィンドウではプレスフォーマットを選択できますが、変更することはできません。

3. <Save>をクリックします。データはローカルBrisqueに保存され、PCコントローラのデータベースにも転送されます。



ヒント： 変更を加えたプレスフォーマットを別名で保存するには、<Save As>をクリックします。

プレスフォーマットの削除

プレスフォーマットを削除するには...

1. [Press Format List]ウィンドウでプレスフォーマットを選択して<Delete>をクリックします。確認のダイアログが開きます。
2. <Yes>をクリックします。そのプレスフォーマットがリストから削除されます。

Excurveによるキャリブレーション

Excurveによるキャリブレーションでは、テスト露光を行ってフィルム/プレート上の網パーセントを測定します。測定値をテーブルに入力すると、Brisqueがこのテーブルに基づいてフィルム/プレート上の網パーセント再現を補正します。テーブルの作成に続いて、検証のためのテストを行います。なお、Excurveによるキャリブレーションの前には、必ずRes.Intensityによるキャリブレーションを実施してください。そうしないと、Excurveによるキャリブレーションの結果が無意味になります。



重要：まず、キャリブレーションなしのテストを行って新規のExcurveを作成してください。次に、このテストでの実測値を用いてキャリブレーションありのテストを行ってください。

Creo TurboScreen ProcessorでのExcurveキャリブレーション

スクリーン線数が175 lpi以下ならば、Creo Turbo Screeningはファイルの網パーセントに対してほぼ完璧なリニアレスポンスを提供します。フィルムのバイアス補正には、以下の7個の基準値で十分です。

0%　5%　25%　50%　80%　95%　100%



参考：基準値を7個にすればビグネットの滑らかさが変化しません。

175 lpiを超えるスクリーン線数およびTurboScreen FMスクリーニングについては、トーンレンジ全体で1～2%以内のリニアレスポンスを得るため、一般に11～18個の基準値が必要になります。Creoでは以下の基準値を推奨しています。

0%　2%　5%　10%　15%　25%　35%　50%　60%　70%　80%　90%　95%　100%

スクリーン線数が高い場合およびTurboScreen FMスクリーニングでは、印刷機でのドットゲインがコンベンショナルの低いスクリーン線数よりも大きくなる傾向があります。そのため、ファイルとプレートに対するリニアレスポンスを適正に維持するには、Excurveに対する細心の注意が必要です。印刷機でのドットゲイン補正は、トーンリプロダクションカーブにより行います。



詳細について ☞ P. 86『トーンリプロダクション』

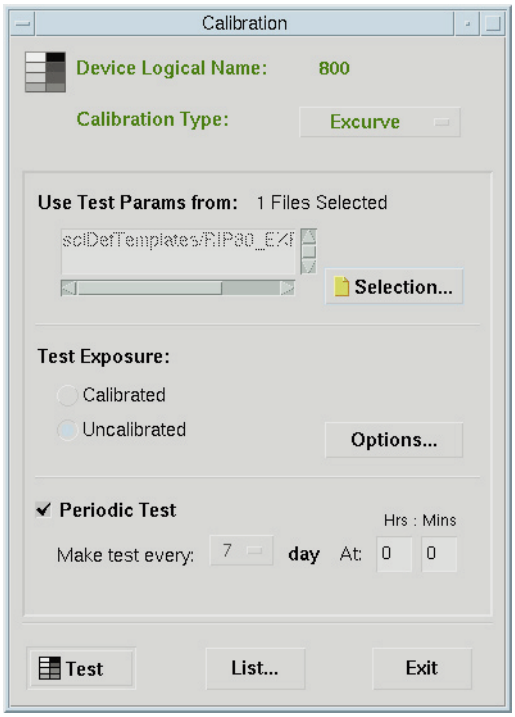
テスト露光

最初のテスト露光はExcurveなしで行います。これで得られるテストデータ(フィルム上の網パーセント測定値)には、何の修正も加わっていません。

テスト露光を行うには...

1. Brisqueのラウンチパッドまたは[Setup]パネルで[Devices]アイコンをダブルクリックします。[Output Devices Handling]ウィンドウが開きます。
2. [PlateSetter]の横の矢印をクリックして機器設定を選択します。これで該当するオペレーションが選択可能になります。
3. <Excurve Calibration>をクリックして[Excurve Calibration]ウィンドウを開きます。

4. <Calibration>をクリックして[Calibration]ウィンドウを開きます。[Calibration Type]リストボックスで[Excurve]を選択します。これでExcurveキャリブレーション用のパラメータが表示されます。



項目	説明
Use Test Params from:	選択状態のテストテンプレートを表示します。
Selection	ブラウザを使用してテンプレートを選択します。
Test Exposure:	Calibrated：キャリブレーションなしのテストストリップでの測定値に基づき、キャリブレートされたパラメータを用いてテスト露光を行います。 Uncalibrated：キャリブレートされていないパラメータを用いてテスト露光を行います。
Options	テストパラメータを微調整します。使用するメディアとその場所、作成する色版とテストパターンを選択します。
Periodic Test	Excurveを定期的に自動検証する場合に選択します。 Make test every：検証テストの間隔を設定します。
Test	Excurveキャリブレーションテストを実行します。
List	キャリブレーションカーブの選択と作成に使用します。

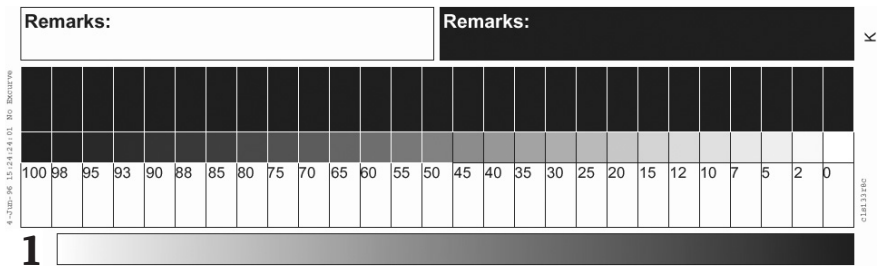
5. <Selection>をクリックします。ブラウザが開いてテンプレートのリストが表示されます。

6. ブラウザで、キャリブレーションの基準にするExpose (Plate Expose)パラメータが入っているテンプレートを選択します。
   最終的には制作条件に合ったテンプレートを作成し、それをキャリブレーションにも使用することになるでしょう。当座は、Brisqueに付属している2つのExposeテンプレートを使用してください。Rip80_Expose 133.jttとRip100_ Expose150.jttは、Templates/SciDef Templatesフォルダに入っています。
   [Calibration]ウィンドウへ戻ると、[Use Test Params from]ボックスに選択したテンプレートが表示されます。
   このボックスに複数のテンプレートがあると、その個数に応じたテスト結果が出ます。
7. [Test Exposure]セクションでは[Uncalibrated]を選択します。
8. 必要ならば、補助パラメータを設定します。

詳細について☞ P. 84『補助のキャリブレーションパラメータ』

9. 上記のパラメータでテスト露光を開始するには、<Test>をクリックします。
10. テスト露光フィルム/プレートを現像します。

参考：本機で他に何かを露光中ならば、テスト露光はその後に行われます。



11. 濃度計で各露光エリアの網パーセントを測定し、結果をメモします。

参考：正確な結果を得るため、測定に入る前に、フィルム/プレート上のゴーストドットエリアに対して濃度計を0に調整してください。

重要： 事前にIntensityキャリブレーションを行わないと、Excurveキャリブレーションの結果が無意味になってしまいます。

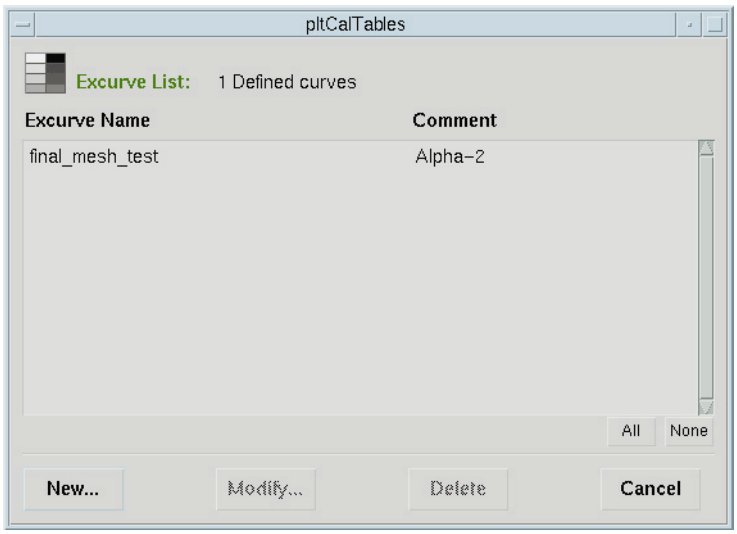
Excurveの作成

テスト露光パッチの網パーセント測定が終わったら、このデータをもとに、フィルム上の網パーセント再現を補正するExcurveを作成します。

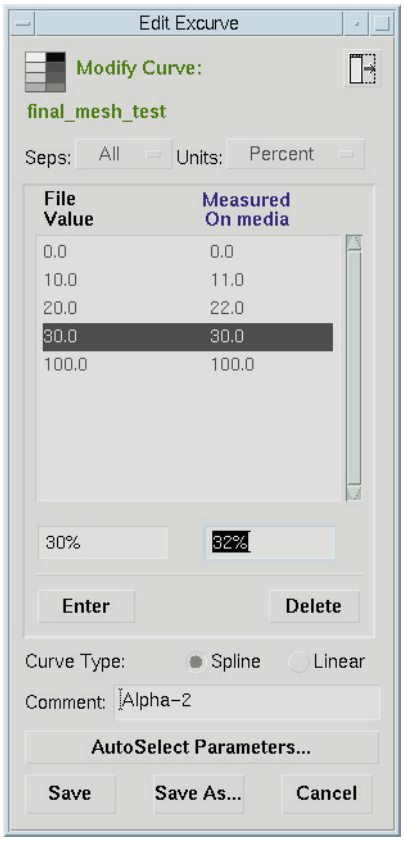
新規Excurveの作成には2通りの方法があります。カーブを最初から作成することも、既存のカーブを修正して別名で保存することもできます。

新規のExcurveを最初から作成するには...

1. [Calibration]ウィンドウで<List>をクリックします。[Excurve List]ウィンドウが開きます。



2. <New>をクリックします。[Edit Excurve]ウィンドウが開き、直線に相当するデフォルト値「0,0」「100,100」が表示されます。



参考：[Measured on Media]欄はプレートも対象とします。

項目	説明
Seps	このExcurveを適用する色版を指定します。通常、このオプションは[All]にしておきますが、各版用にExcurveを作成することもできます。
Units	網パーセント表示用の単位を選択します。 [Percent]は、0～100%で表示します。 [System]は、255～0で表示します。大小は[Percent]と逆で、0が100%、255が0%に相当します。
Comment	このボックスにタイプするコメントは、[Excurve List]ウィンドウの[Comment]欄に表示されます。コメントはExcurveファイルの区別に役立ちます。
Enter	設定値をテーブルに追加します。
Delete	設定値をテーブルから削除します。
AutoSelect Parameters	Excurveを適用する露光条件を設定します。これによって、適切なExcurveを露光のごとに自動選択させることができます。

3. テーブルの下のボックスにファイル設定値とメディア測定値をタイプします。



詳細について ☞ P. 73『テーブルでの数値入力』

4. <Save>か<Save as>をクリックします。[Save]ウィンドウが開きます。
5. [Save this Excurve as]ボックスにファイル名をタイプして<OK>をクリックします。これで[Excurve List]ウィンドウへ戻り、リストに新しいExcurveが表示されます。

新規のExcurveを既存のカーブから作成するには...

1. **[Calibration]ウィンドウで<List>をクリックします。[Excurve List]ウィンドウが開きます。**
2. **リストでExcurveを選択します。**
3. **<Modify>をクリックします。[Edit Excurve]ウィンドウが開き、テーブルに設定済みの数値が表示されます。**
4. **テーブルの数値とExcurveのオプションを変更します。**
5. **<Save as>をクリックします。[Save]ウィンドウが開きます。**
6. **[Save this Excurve as]ボックスに別のファイル名をタイプします。**
7. **<OK>をクリックします。これで[Excurve List]ウィンドウへ戻り、リストに新しいExcurveが表示されます。**

テーブルでの数値入力

Excurveを作成するには、ファイル設定値とメディア測定値(プレートにも共通)をExcurveテーブルに入力します。テスト露光フィルム/プレートに現れる数値はファイル設定値です。濃度計で各エリアを測定すると、この設定値と対になる測定値がわかります。

通常のExcurveテーブルには、1～100%の範囲に21組の設定値と測定値が等間隔で並んでいます。このペアを増やすと、キャリブレーションの精度が高くなります。ある範囲をより細かくキャリブレートする場合は、そこにペアをいくつか追加します。例えば、シャドウに問題があればファイル設定値が低いペアを、ハイライトに問題があればファイル設定値が高いペアを追加します。

設定値と測定値のペアをテーブルに追加するには...

1. **[File Value]欄の下のボックスにファイル設定値をタイプします。**
2. **[Measured on Media]欄の下のボックスへ移り、ファイル設定値と対になるメディア測定値をタイプします。**



参考：[Measured on Media]欄はプレートも対象とします。

3. **<Enter>をクリックします。新しいペアがテーブルに加わります。**

設定値と測定値のペアを変更するには...

➢ 削除してからもう一度タイプします。

ペアを削除するには...

➢ テーブルでその行を選択して<Delete>をクリックします。



参考： 1/10の位は、「x.0%」または「x.5%」という概数になることがあります。両端(0,0と100,100)は変更・削除できません。



ヒント： キーボードの<Tab>キーによって、[File Value]欄→[Measured on Media]欄→[Comment]ボックス→[File Value]欄の順に移動することができます。逆方向の移動は<Shift>+<Tab>で行います。

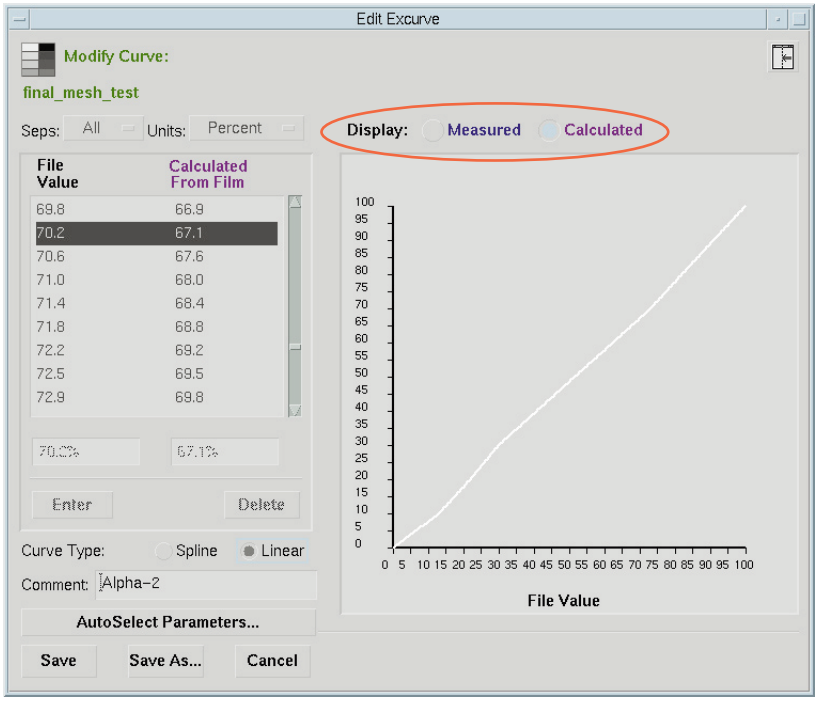
グラフの表示

[Edit Excurve]ウィンドウは、MeasuredとCalculatedの2種類のグラフを表示します。

- Measuredは、ファイル設定値とメディア測定値の関係を表すグラフです。
- Calculatedは自動作成されるExcurveで、設定値と測定値の食い違いを補正します。グラフは交互に表示させることができます。

グラフを見るには...

1. **<拡大> ボタンをクリックします。もとの表示に戻すには、もう一度クリックします。**

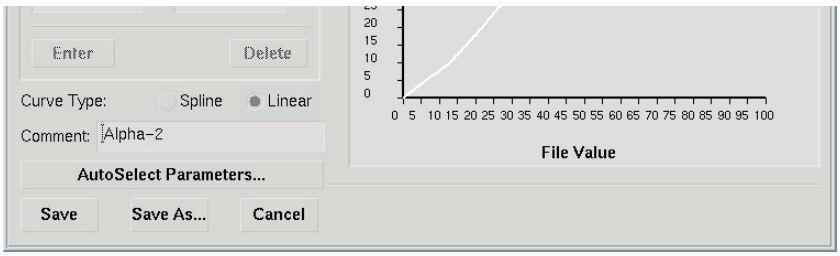


2. **[Display]の<Measured>か<Calculated>をクリックし、表示させるグラフを選択します。**

参考：[Measured]を選択すると、テーブルの右欄にメディア測定値が表示されます。[Calculated]を選択すると、テーブルの右欄に自動計算された補正値が表示されます。

カーブの滑らかさの調整

ユーザー指定のポイントの間に新しいポイントを追加して、Excurveの滑らかさを調整することができます。



1. Excurveを滑らかにするには、[New/Edit Excurve]ウィンドウで[Spline]を選択します。
2. [Spline]で滑らかにしたカーブをもとの状態に戻すには、[Linear]を選択します。デフォルトでは[Linear]が選択されています。

参考： [Spline]の効果は、入力データから作成する実際のExcurveに表れます。[New/Edit Excurve]ウィンドウのMeasuredとCalculatedのグラフには、その効果が表れません。

Excurveのチェック

Excurveテーブルの作成が終わったら、[Calibration]ウィンドウへ戻ってキャリブレーションが正しく行われるかどうかをチェックします。

重要： フィルム/プレート出力に求められる精度にもよりますが、少なくとも1日1回はExcurveをチェックすることをお勧めします。

Excurveをチェックするには...

1. Excurveを初めてチェックするときには、[Calibration]ウィンドウへ戻り、[Calibration Type]が[Excurve]になっていることを確認します。このウィンドウが閉じている場合、または定期的なチェックを行う場合は、ラウンチパッドで[Calibration]アイコンをダブルクリックして[Calibration]ウィンドウを開きます。
2. 初回のチェックでは、キャリブレーションの基準にしたExposeパラメータを含むテンプレートが[Use Test Params from]ボックスに表示されます。

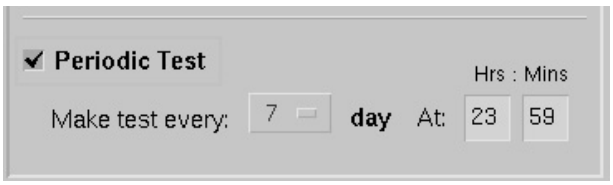
   定期的なチェックのときに適切なテンプレートがこのボックスに表示されない場合は、<Selection>をクリックしてブラウザを開き、チェックしたいExcurveのリンク先のテンプレートを選択します。[Calibration]ウィンドウへ戻ると、選択したテンプレートが[Use Test Params from]ボックスに表示されます。
3. テンプレートへ移ってExposeパラメータを調べ、目的のExcurveがリンクされていることを確認します。
4. [Test Exposure]セクションで[Calibrated]を選択します。
5. <Test>をクリックします。これで、指定のテンプレートにリンクされたExcurveテーブルに従ってテスト露光が行われます。今回の露光は、ユーザーが作成したExcurveに基づいています。
6. テスト露光フィルム/プレートを現像します。濃度計で各エリアの網パーセントを測定し、結果をメモします。正確な結果を得るため、測定に入る前に、フィルム/プレート上のゴーストドットエリアに対して濃度計を0に調整してください。

   メディア測定値がファイル設定値±2%ならば、これ以上の調整は不要です。

   測定値がこの範囲内になければ、Excurveによるキャリブレーションを最初から繰り返します。濃度計での測定に正確を期し、テーブルの設定値と測定値を多くしてください。

Excurveの自動定期検証

Brisqueには、指定の間隔でExcurveを自動的にチェックするオプションがあります。パッチのテスト露光は、テンプレートのExposeパラメータに従って行われます。



自動定期検証の設定をするには...

1. [Calibration]ウィンドウで[Periodic Test]チェックボックスを選択します。
2. [Make test every]メニューリストでテスト間隔の日数を選択します。
3. [At]の[Hrs：Mins] (時：分)ボックスでテストの開始時刻を指定します。

Excurveの変更

Excurveが正確でなくなったら、キャリブレーション(Excurve)なしでテスト露光を行い、フィルム/プレートの網パーセントを測定し、新しいファイル設定値とメディア測定値をExcurveテーブルに入力します。まったく新しいテーブルを作成することも、既存のテーブルを変更することもできます。

詳細について ☞ P. 70『Excurveの作成』

既存のExcurveを変更するには...

1. [Calibration]ウィンドウで<List>をクリックします。[Excurve List]ウィンドウが開きます。
2. [Excurve List]ウィンドウで、変更するExcurveを選択します。そのExcurveがハイライト表示になります。
3. <Modify>をクリックします。[Edit Excurve]ウィンドウが開き、左上のアイコンの横に「Modify Curve」と表示されます。
4. Excurveテーブルに新しいメディア測定値を入力します。

詳細について ☞ P. 73『テーブルでの数値入力』

参考：[Measured on Media]欄はプレートも対象とします。

5. テーブルの変更が終わったら、<Save>をクリックします。変更したExcurveがもとの名前で保存され、[Excurve List]ウィンドウへ戻ります。

Excurveを削除するには...

1. [Excurve List]ウィンドウでExcurveを選択します。そのExcurveがハイライト表示になります。
2. <Delete>をクリックします。Excurveが削除されリストから消えます。

Excurveをワークフローにリンクする

これまでは、Excurveテーブルの作成・変更の手順を学習しました。ここでは、露光のごとに適切なExcurveを適用する手順を説明します。

Excurveは露光条件に合わせて作成します。[AutoSelect]オプションを使用すると、正しいExcurveを露光のごとに自動選択させることができます。また、Excurveをマニュアルでテンプレートにリンクし、このExcurveをこのテンプレートでのファイル処理に適用することも可能です。

Excurveをマニュアルでテンプレートにリンクするには...

➢ **Template BuilderでExposeパラメータを設定するときに、[Expose]ウィンドウで適切なExcurveを指定します。**



詳細について☞『Brisque User Guide』の『フィルム出力』または『プレート出力』の章

[AutoSelect]オプションを使用するには...

1. **テンプレートのExposeパラメータを設定するときに、Excurveファイルでなく ExcurveAutoSelectファイルを選択します。**



詳細について☞『Brisque User Guide』の『フィルム出力』または『プレート出力』の章

2. **Excurveテーブルを作成するときに、[AutoSelect]パラメータでExcurveを適用する露光条件を設定します。[Expose]ウィンドウで[Excurve Auto Select]オプション(デフォルト)を選択してあれば、この条件を満たすExposeオペレーションにExcurveが自動適用されます。**

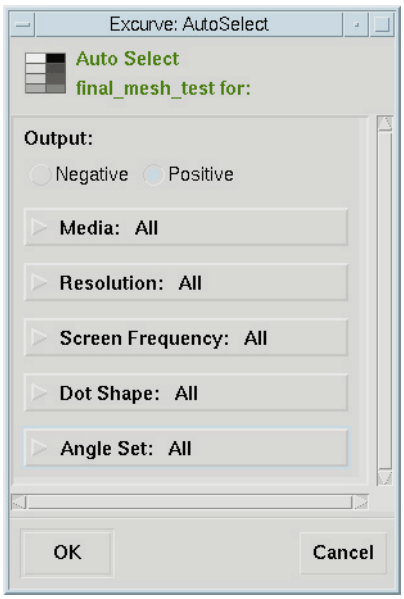
例えば、コンベンショナルアングルセットのネガフィルム出力に対して、あるExcurveを適用するように設定したとしましょう。あるジョブのExposeパラメータがこの条件と一致しており[AutoSelect]オプションを含む場合は、このExcurveがこのジョブに自動適用されます。



ヒント： ジョブによってポジ/ネガ、メッシュ設定、網点形状などの露光条件が異なる場合は、別々のExcurveを作成して適用することをお勧めします。

[AutoSelect]のパラメータを設定するには...

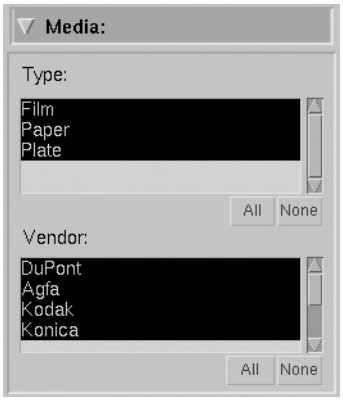
1. **[Excurve List]ウィンドウでExcurveを選択して<Modify>をクリックします。[Edit Excurve]ウィンドウが開きます。**
2. **[Edit Excurve]ウィンドウで<AutoSelect Parameters>をクリックします。[Excurve: AutoSelect]ウィンドウが開きます。**



3. **[Output]で[Negative]または[Positive]を選択し、このExcurveテーブルをネガ露光とポジ露光のどちらに使用するかを指定します。**

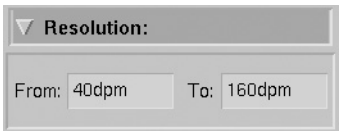
参考：[AutoSelect]オプションを使用するときには、ネガ露光とポジ露光用にExcurveテーブルを最低1つずつ作成してください。

4. **[Media]リストボックスをクリックし、このExcurveを適用するメディアのタイプとメーカーを選択します。リストボックスを閉じると選択が無効になるので、開いたままにしておいてください。**

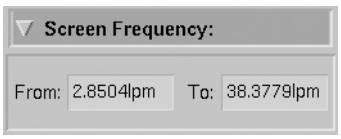


[Resolution]リストボックスをクリックし、[From] [To]ボックスで解像度の範囲を指定します。リストボックスを閉じると選択が無効になるので、開いたままにしておいてください。

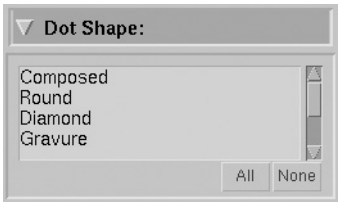
参考： Lotem 800 Quantumの解像度は94.448～100です。



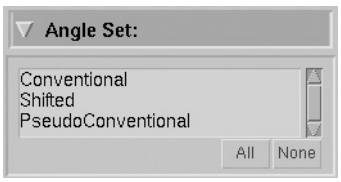
5. **[Screen Frequency]リストボックスをクリックし、[From] [To]ボックスでスクリーン線数の範囲を指定します。リストボックスを閉じると選択が無効になるので、開いたままにしておいてください。**



6. **[Dot Shape]リストボックスをクリックし、リストで網点形状を選択します。リストボックスを閉じると選択が無効になるので、開いたままにしておいてください。**



7. **[Angle Set]リストボックスをクリックし、リストでアングルセットを選択します。リストボックスを閉じると選択が無効になるので、開いたままにしておいてください。**



8. **設定を保存して[Excurve: AutoSelect]ウィンドウを閉じるには、<OK>をクリックします。設定を破棄して終了するには、<Cancel>をクリックします。**

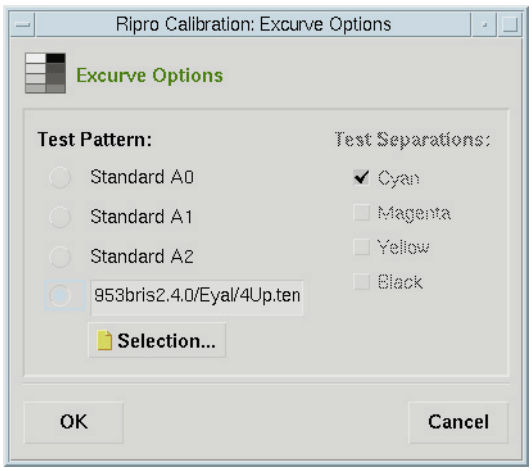
参考：リストボックスで選択できるオプションは、接続している出力機によって異なります。

補助のキャリブレーションパラメータ

Excurveによるキャリブレーションでは、いくつかの補助パラメータを設定することができます。

補助パラメータを設定するには...

➢ [Calibration]ウィンドウで<Options>をクリックします。[Excurve Options]ウィンドウが開きます。



項目	説明
Test Pattern	標準のテストパターンを使用するには、<Standard>ラジオボタンのどれかをクリックします。  カスタムのテストパターンを使用するには、ブラウザで別途に選択します。
Test Separations	テスト画像のうち何版を出力するかを指定します。通常のキャリブレーションには、シアン版だけで十分です。

カスタムテストパターンの指定

Excurveによるキャリブレーションでは、標準のテストパターンを使用することも、カスタムのテストパターンを指定することもできます。

画像をカスタムのテストパターンにするには...

1. 空のボックスのラジオボタンをクリックします。
2. <Selection>をクリックしてブラウザを開きます。



ブラウザの使用方法について☞『Brisque User Guide』の『ファイルとフォルダの管理』の章

3. ブラウザで画像ファイルを選択して<OK>をクリックします。選択したファイル名がボックスに表示されます。テストのときにはこの画像が露光されます。

トーンリプロダクション

トーンリプロダクションカーブは、印刷機の影響(ドットゲインなど)に応じた補正、および画像の色調を整えるために作成します。印刷機での測定値と印刷会社が提供する補正テーブルをもとに、カーブを作成します。トーンリプロダクションカーブはExcurveに似ていますが、測定値を用紙やフィルム/プレートからでなく印刷機からとる点が違っています。

トーンリプロダクションカーブの作成・変更・削除は、BrisqueのTone Repアプリケーションで行えます。

ジョブの露光に適用するトーンリプロダクションカーブは、Brisqueの以下のアプリケーションで選択できます。

- **Improof**
- **Halftone Proof**
- **Expose**
- **Plate Expose**

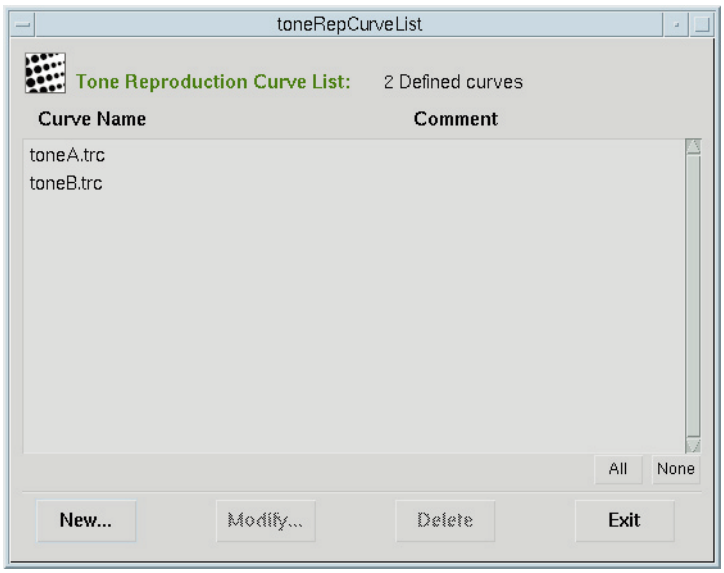


参考：ToneRepアプリケーションを起動する前に、Excurveによるキャリブレーションと Excurveのチェックをすませておいてください。

アプリケーションの起動

ToneRepアプリケーションを起動するには...

1. **Brisqueのラウンチパッドまたは[Setup]パネルで[Devices]アイコンをダブルクリックします。[Output Devices Handling]ウィンドウが開きます。**
2. **デバイスタイプの横の矢印をクリックし、機器の横の矢印をクリックします。**
3. **機器設定を選択します。これで該当するオペレーションが選択可能になります。**
4. **[ToneRep]をクリックします。[Tone Rep Curve List]ウィンドウが開きます。**



5. **[Tone Rep Curve List]ウィンドウでカーブを選択するには、1つずつクリックします。選択したカーブはハイライト表示になります。**

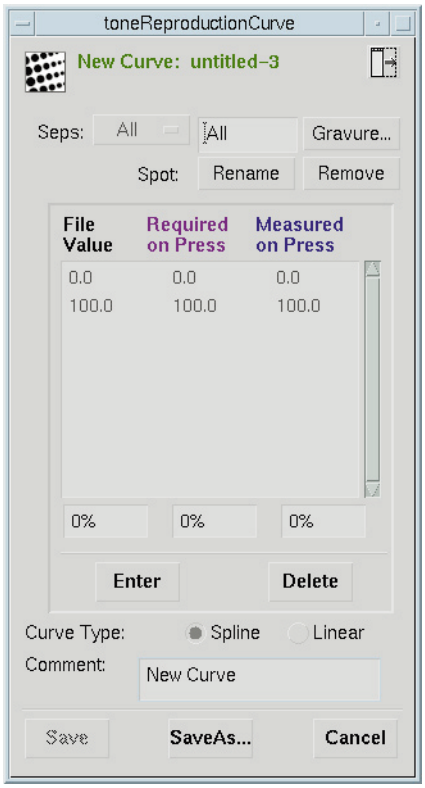
参考：選択を解除するには、もう一度クリックします。これで、表示がもとに戻ります。

トーンリプロダクションカーブの作成

新規トーンリプロダクションカーブの作成には2通りの方法があります。カーブを最初から作成することも、既存のカーブを修正して別名で保存することもできます。

新規のトーンリプロダクションカーブを最初から作成するには...

1. [Tone Rep Curve List]ウィンドウで<New>をクリックします。[Tone Reproduction Curve]ウィンドウが開きます。



項目	説明
Seps	色版のリストを表示します。現在選択中の色版は、リストの横のボックスに表示されます。
Spot	Rename：[Seps]リストの特色の名前を変更することができます。 Remove：[Seps]リストから特色を削除します。
Gravure	シリンダー上で再現可能な網パーセントの最小値と最大値を制限するカーブを作成します。
テーブル	カーブ値のテーブルには3つの欄があります。 File Value：テスト露光に使用したファイル設定値です。21個のファイル設定値を入力することをお勧めします。 Required on Press：ユーザーの判断に基づく印刷機の所要濃度です。通常は、熟練工が算出した概算補正値、または特殊効果を出すためにわざと片寄らせた数値となります。 3つの欄に数値を入力すると2つのカーブが作成され、これらのカーブから1つのトーンリプロダクションカーブファイルが作成されます。このファイルを使用する露光には両方のカーブが作用します。 Measured on Press：ジョブの印刷後に印刷機で測定した濃度です。ToneRepアプリケーションはこの測定値とファイル設定値を比較し、ドットゲイン補正用のトーンリプロダクションカーブを作成します。 **参考：** 正確な結果を得るため、測定に入る前に、フィルム/プレート上のゴーストドットエリアに対して濃度計を0に調整してください。
Enter	設定値をテーブルに追加します。

項目	説明
Delete	設定値をテーブルから削除します。
Curve Type	Linear：設定されたポイントだけを用いてカーブを表示します。 Spline：設定されたポイントを補間してカーブを滑らかにします。
Comment	トーンリプロダクションカーブに説明的なコメントを追加します。このコメントは[Tone Rep Curve List]ウィンドウに表示されます。
Save	現在のカーブを保存します。
Save As	変更を加えたカーブを別名で保存します。

2. 各種のオプションを用いて新規カーブの設定をします。

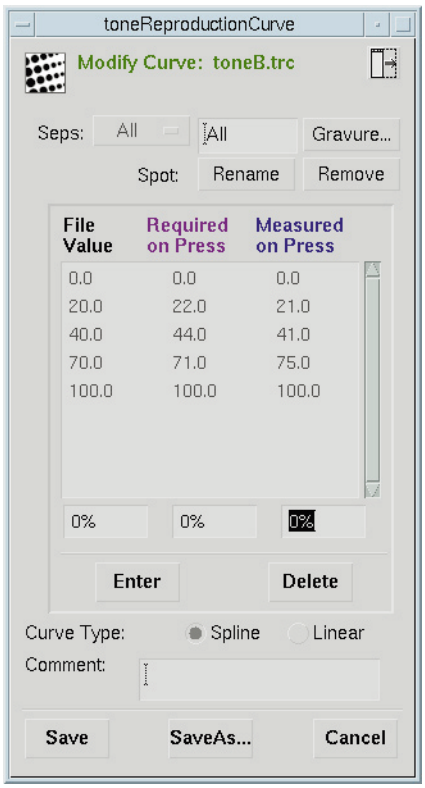


詳細について ☞ P. 92『カーブの数値指定』

3. <Save as>をクリックします。[Save]ウィンドウが開きます。
4. [Save this TR curve as]ボックスにファイル名をタイプして<OK>をクリックします。これで[Tone Rep Curve List]ウィンドウへ戻り、リストに新しいトーンリプロダクションカーブが表示されます。

新規のカーブを既存のカーブから作成するには...

1. [Tone Rep Curve List]ウィンドウでカーブを選択します。
2. <Modify>をクリックします。[Tone Reproduction Curve]ウィンドウが開きます。



3. 各種のオプションを変更します。

詳細について ☞ P. 92以降

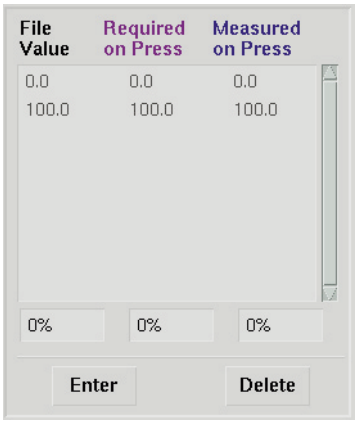
4. <Save as>をクリックします。[Save]ウィンドウが開きます。

参考： トーンリプロダクションカーブファイルにコメントを追加するには、保存する前に作成日や用途などを[Comment]ボックスにタイプします。このコメントは、[Tone Rep Curve List]ウィンドウの[Comment]欄に表示されます。

5. [Save this TR curve as]ボックスに別のファイル名をタイプします。
6. <OK>をクリックします。これで、[Tone Rep Curve List]ウィンドウへ戻ります。

カーブの数値指定

トーンリプロダクションカーブを作成するには、[Tone Reproduction Curve]ウィンドウのテーブルに何組かの数値を入力します。



- カーブの作成に入る前に、[Seps]リストボックスでトーンリプロダクションカーブを適用する色版を指定します。

特色をリストに追加する手順について ☞ P. 93『特色を[Seps]リストボックスに追加する』

ヒント： [All] [C] [M] [Y] [K] [Others]が選択できます。[Others]は個別表示されない特色を示します。

テーブルに数値を入力するには...

1. 各欄の下のボックスをクリックして数値をタイプします。

参考： ボックス間の移動には、<Tab>キーかマウスを使用します。

2. 1組の数値をタイプしたら、<Enter>をクリックします。数値がテーブルに表示されます。

参考： 1/10の位は、「x.0%」または「x.5%」という概数になります。

数値を変更するには...

1. テーブルで目的の行をクリックします。選択した数値がテーブルに表示されます。
2. 各欄の数値を変更します。
3. <Enter>をクリックします。変更した数値がテーブルに表示されます。

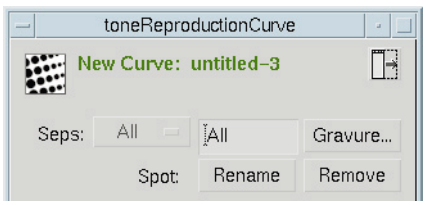
数値を削除するには...

1. テーブルで目的の行をクリックしてハイライト表示にします。
2. <Delete>をクリックします。数値がテーブルから削除されます。

参考： 両端(0,0と100,100)は変更・削除できません。

特色を[Seps]リストボックスに追加する

特色用にカスタムのトーンリプロダクションカーブを作成するには、前もってその色版の名前が[Seps]リストボックスにあることが必要です。リストの特色は、追加・削除・名前変更することができます。



特色をリストに追加するには...

1. 色版の正式名を[Seps]ボックスにタイプします。
2. <Enter>キーを押します。その色がリストボックスに表示されます。

特色をリストから削除するには...

1. リストで特色を選択します。その名前が[Seps]ボックスに表示されます。
2. <Remove>をクリックします。その色がリストボックスから消えます。

特色の名前を変更するには...

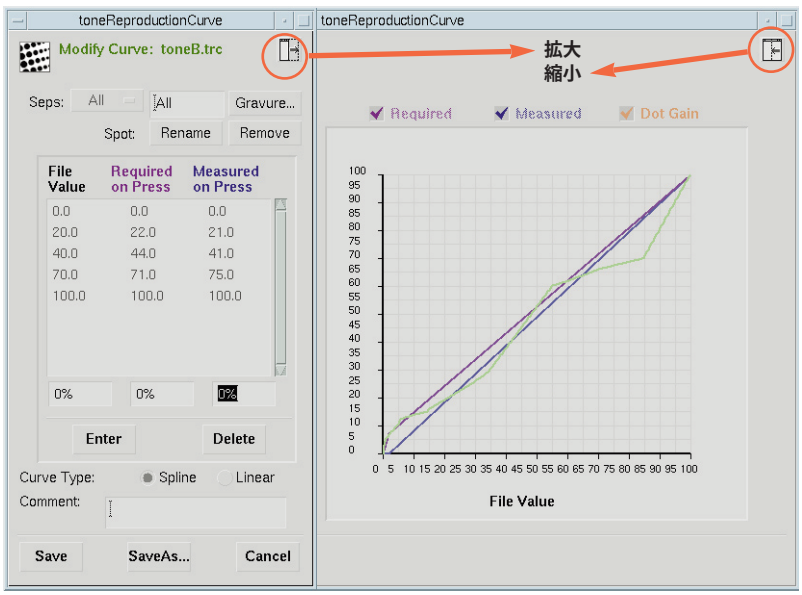
1. リストで特色を選択します。その名前が[Seps]ボックスに表示されます。
2. [Seps]ボックスで名前を変更します。
3. <Rename>をクリックします。その色の名前が変わります。

参考：プロセスカラーの削除と名前変更は行えません。

グラフの表示

[Tone Reproduction Curve]ウィンドウは、テーブルの数値で作成されるグラフを表示します。

1. グラフを見るには、[Tone Reproduction Curve]ウィンドウ右上の<拡大>ボタンをクリックします。ウィンドウが拡大します。

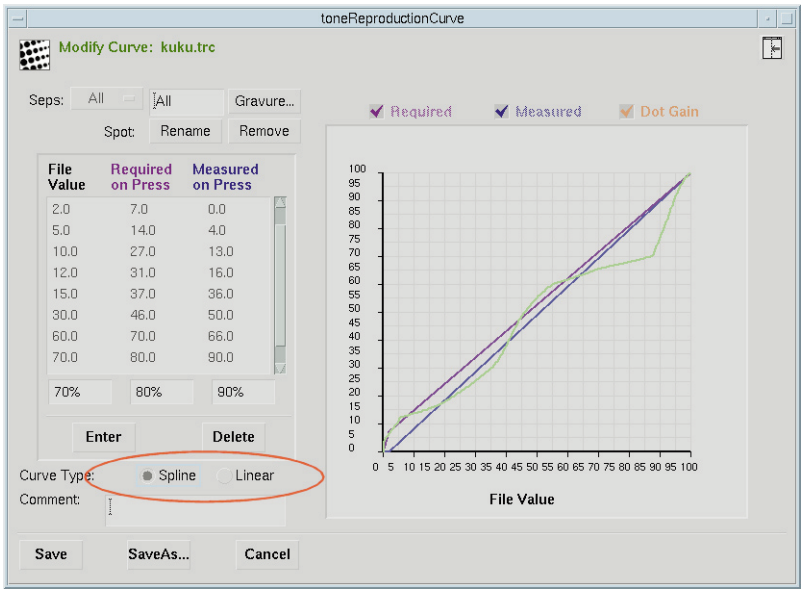


項目	説明
Measured	[File Values]欄と[Measured on Press]欄の数値に基づくカーブを表示します。
Required	[File Values]欄と[Required on Press]欄の数値に基づくカーブを表示します。
Dot Gain	[Measured on Press]値と[Required on Press]値の差を表示します。

2. MeasuredとRequiredのグラフを表示させるには、一方または両方のチェックボックスを選択します。
3. ドットゲインのグラフを表示させるには、[Dot Gain]チェックボックスを選択します。
4. もとの表示に戻すには、<縮小>ボタンをクリックします。

カーブの滑らかさの調整

ユーザー指定のポイントの間に新しいポイントを追加して、トーンリプロダクションカーブの滑らかさを調整することができます。



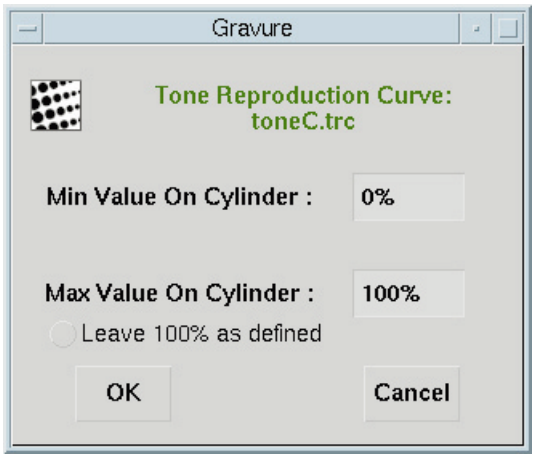
1. トーンリプロダクションカーブを滑らかにするには、[Tone Reproduction Curve]ウィンドウで[Spline]を選択します。カーブが滑らかになった状態は画面上で確認できます。
2. [Spline]で滑らかにしたカーブをもとの状態に戻すには、[Linear]を選択します。

グラビア印刷向けのカーブ作成

グラビア印刷機で印刷を行う場合は、シリンダー上で再現可能な網パーセントの最小値と最大値を制限するカーブを作成します。カーブの最大値と最小値は、[Gravure]ウィンドウで設定します。通常、最大値は80%前後、最小値は0%です。

カーブの最大値と最小値を設定するには...

1. <Gravure>をクリックします。[Gravure]ウィンドウが開きます。



2. [Max Value on Cylinder]ボックスに最大値をタイプします。
3. [Min Value on Cylinder]ボックスに最小値をタイプします。
4. 設定値を保存して[Gravure]ウィンドウを閉じるには、<OK>をクリックします。

トーンリプロダクションカーブの変更

トーンリプロダクションカーブを変更することができます。

トーンリプロダクションカーブを変更するには...

1. [Tone Rep Curve List]ウィンドウでファイルを選択して<Modify>をクリックします。[Tone Reproduction Curve]ウィンドウが開きます。



参考：複数のファイルを選択してあれば、複数のウィンドウが開きます。

2. 数値の組を追加・変更・削除します。



手順について ☞ P. 92『カーブの数値指定』

3. <Save>をクリックします。これでファイルが更新され、[Tone Rep Curve List]ウィンドウへ戻ります。

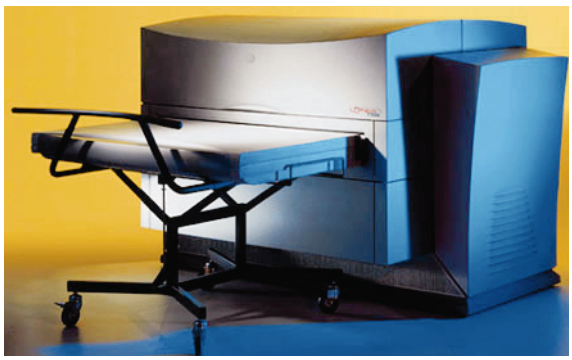
トーンリプロダクションカーブの削除

トーンリプロダクションカーブファイルをリストから削除するには...

1. ファイルを選択して<Delete>をクリックします。削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
2. <OK>をクリックします。これでファイルが削除され、[Tone Rep Curve List]ウィンドウへ戻ります。

6 Brisqueからのジョブ処理

折丁エレメントの見当合わせ 102
ジョブとテンプレートのリンク 106
Plate Exposeパラメータの設定 112
Storeパラメータの設定 123
ジョブチケットの登録 127
緊急のプレートリメーク 130
ジョブの長期保管 135



この章では、ページ/レイアウトエレメントの見当合わせから、プレート出力、データベースへの保管まで、Brisque上で面付けジョブを処理する手順を説明します。また、[Quick Re-Expose]オプションによる緊急プレートリメークの手順についても説明します。

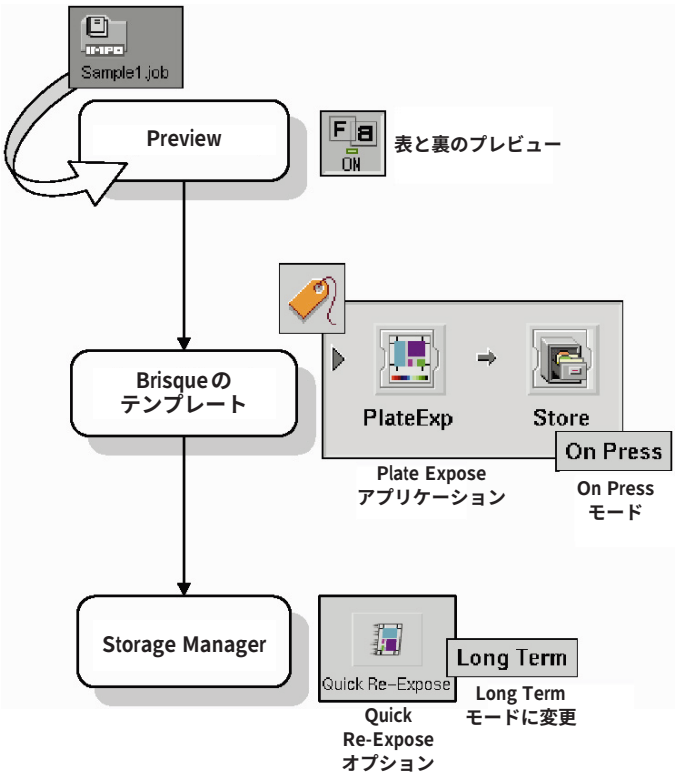
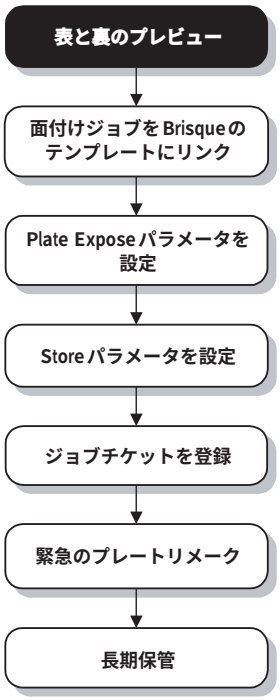


図20： Brisqueでの一般的なLotem 800 Quantumワークフロー(Preview→Plate Expose→Store→Storage Manager)

Brisqueでの一般的なLotem 800 Quantumワークフロー

1. **Previewアプリケーションを起動し、表と裏のフラットがある折丁1枚の面付けレイアウトを表示させ、両面のページエレメントが揃っているかチェックする。**
2. **Plate ExposeとStoreを含むBrisqueのテンプレートを作成する。**
3. **ジョブを処理する前に、Plate ExposeとStoreのパラメータを設定する。**
4. **面付けジョブをBrisqueのテンプレートに登録し、プレート出力を自動で実行させる。**
5. **面付けジョブをOn Pressモードでデータベースへ送る。**
6. **必要に応じて、Storage Managerアプリケーションの[Quick Re-Expose]でプレートリメークを実行する。**
7. **ジョブと関連エレメント(RIP処理前のファイル、マークファイル)の保管モードをLong Termに切り替える。**

折丁エレメントの見当合わせ



この章では、Previewアプリケーションを起動し、表と裏のフラットがある折丁1枚のレイアウトで、両面のページエレメントが揃っているかチェックします。フィルムを使用しないCTP環境では、これがとても便利です。Prepsの面付けファイルに戻らずに、折丁のエレメントを画面上で移動・修正することができます。そのため、見当チェック用のテストプレートを無駄にすることもありません。

この章に示したサンプルジョブは、菊全判16ページの面付けジョブです。Brisqueボリュームに同じようなファイル(4ページまたは8ページのレイアウトが2つのフラットに1つずつあるもの)がないか、探してみてください。

表と裏のフラットのページエレメントを揃えるには、Previewアプリケーションの表/裏プレビュー機能を使用します。

詳細について☞『Brisque User Guide』の『Preview』の章

表と裏のプレビュー

折丁の表と裏のフラットが揃っているかどうか、確認することができます。面付けファイルに戻らなくても、表示エリアでページを動かして折丁を修正することが可能です。

表と裏のプレビューを実行するには、[Preview Layout]ツールバーのアイコンをクリックします。

参考：表と裏のプレビューは、両面レイアウトの面付けジョブ専用です。

ここでは「表」「裏」という用語を以下の意味で用いています。

表　印刷する折丁の表面のフラット。

裏　印刷する折丁の裏面のフラット。



➢ 表裏プレビューモードのON/OFFを切り替えるには、[Preview Layout]ツールバーで[表裏プレビュー]アイコンをクリックします。これでアイコンの表示がONかOFFに変わります。

表裏プレビューモードに入ると、表のフラットが前面、裏のフラットが背面に表示されます(裏のフラットの表示は、Prepsでの面付けパラメータ設定により横または縦に反転します)。



参考： 前面表示のフラットにはブルーの枠がつき、背面表示のフラットにはブラックの枠がつきます。



ヒント： 処理時間の短縮と作業の能率化のため、表と裏のプレビューにはニックネーム表示モードを使用してください。低解像度画像表示モードを使用する場合は、見当をチェックするエリアの表示倍率を上げてください。これで処理時間を短縮することができます。

表と裏のフラットの表示を切り替える

表のフラットと裏のフラットの前後表示を切り替え、どちらのフラットからでも見当を合わせることができます。

裏のフラットの表示は、面付けパラメータの設定により横または縦に反転します。



➢ 表と裏のフラットの前後表示を切り替えるには、2つの[表裏切替]アイコンの一方をクリックします。前面表示のフラットにはブルーの枠がつき、背面表示のフラットにはブラックの枠がつきます。



前面のフラットが背面のフラットの上に表示され、背面の中で前面に覆われていない部分が見えるようになります。前面に表示されたフラットのページ/マークエレメントを動かし、表(裏)のフラットの各エレメントを裏(表)のフラットの各エレメントと揃えることができます。詳細について ☞ P. 105『表と裏のエレメントの見当を合わせる』

背面のフラットを前面のフラットから透かして見る

表裏プレビューモードに入ると、前面のフラットが背面のフラットの上に表示されます。このときの透明度は0%なので、背面の中で前面に覆われていない部分しか見えません。ここでは、透明度を調整する手順を説明します。

現在の表示モードに応じて、以下の透明モードを使用することができます。

ゴースティング　**低解像度画像表示モードとクィックプレビュー表示モードでは、背面のフラットの各エレメントが見えるように、前面のフラットの透明度を調整することができます。**



- **➢ ゴースティング/マスキングをONにするには、[透明]アイコンをクリックします。**
- **➢ ゴースティング/マスキングをOFFにするには、[透明]アイコンをもう一度クリックします。**



- **➢ 低解像度画像表示モードとクィックプレビュー表示モードでゴースティングの透明度を上げるには、[＋]アイコンをクリックします。**



- **➢ 低解像度画像表示モードとクィックプレビュー表示モードでゴースティングの透明度を下げるには、ツールバーで[－]アイコンをクリックします。**

表と裏のエレメントの見当を合わせる

ゴースティング/マスキングをONにすると、ページ/マークエレメントを動かして表のフラットを裏のフラットと完全に揃えることができます。

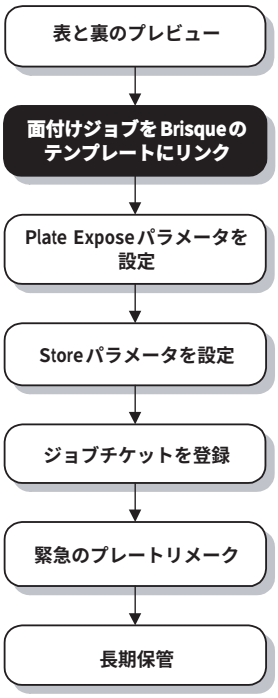
エレメントを動かせるのは、前面のフラット(ブルー枠付き)だけです。背面のフラット(ブラック枠付き)の静止したエレメントを基準に、前面のフラットのエレメントを動かします。



ヒント： **エレメントの見当合わせには、処理時間を短縮するため、なるべくニックネーム表示モードを使用してください。**

見当を正確に合わせるには、表示倍率を上げてマウスの右ボタンでエレメントをドラッグします(このほうが[Parameters]ウィンドウで数値を指定するよりもかなり高速です)。

ジョブとテンプレートのリンク

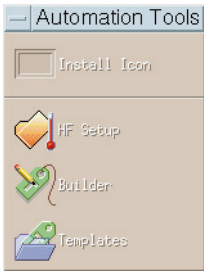


面付けジョブのページ/マークエレメントの見当合わせが終わったら、Brisqueのテンプレートでジョブを処理し、直接プレートに出力して、ジョブとその内容をOn Pressモードで保管します。

ジョブをテンプレートにリンクする前に、まずPlate ExposeとStoreを含むBrisqueの新規テンプレートを作成します。

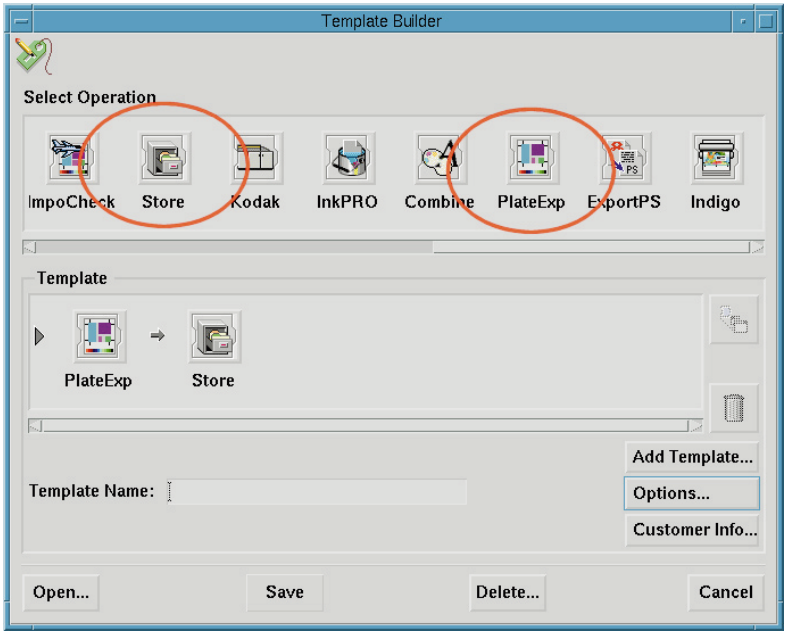
新規のテンプレートを作成するには...

1. ラウンチパッドで[Automation Tools]パネルを開きます。



2. [Builder]アイコンをダブルクリックして[Template Builder]ウィンドウを開きます。

3. [Template Builder]ウィンドウの[Select Operation]セクションで、最初に[Plate Expose]アイコン、次に[Store]アイコンをクリックします。これで、各アプリケーションのアイコンがこの順序で[Template]セクションに表示されます。



4. テンプレートを保存するには、まずジョブの保管場所を指定することが必要です。これ以外のStoreパラメータとPlate Exposeパラメータは、後で設定します。☞ P. 112、P. 123

   [Store]アイコンをダブルクリックして[Store Parameters]ウィンドウを開きます。

5. 後で緊急のプレートリメークが行えるように、[Storage Mode]セクションで[On Press]を選択します。



6. **[Storage Location]セクションでは[Host]が自動的に選択されます。**

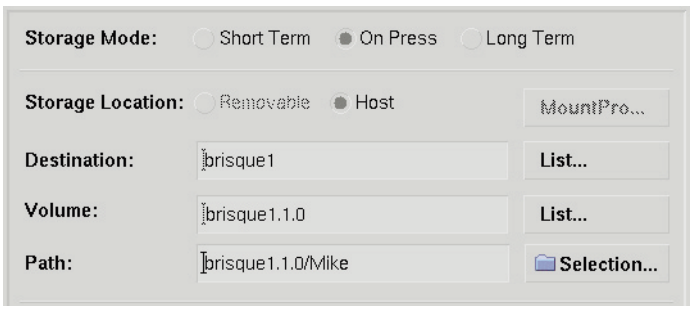


参考： On Pressモードでは、ジョブをJazディスクでなく、ローカル/リモートのBrisqueボリューム(Host)に保存します。そのため、急場のプレートリメークなどの場合に、ジョブエレメントをすぐに引き出すことができます。

参考： Short TermモードとLong Termモードでは、ファイルをローカル/リモートのBrisqueボリュームまたはJazディスク(Removal)に保存することができます。

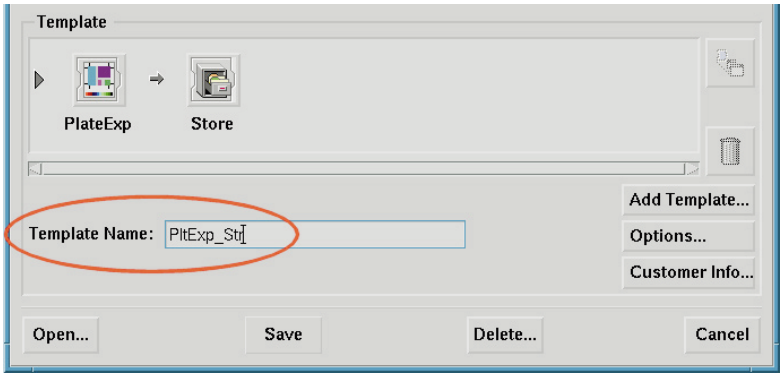
7. **[Destination] [Volume] [Path]の各パラメータで保存用の送付先フォルダを指定します。**

詳細について☞『Brisque User Guide』の『Store』の章



重要： データ保管専用のBrisqueボリュームを使用し、このフォルダへのアクセスを制限してください。Storeでこのボリュームにコピーしたデータを不用意に削除・移動すると、[Quick Re-Expose]と[Resume to Queue]は正常に機能しません。これは、この2つのアプリケーションが送付先フォルダから保管エレメントを引き出し、発信元フォルダへコピーするためです。

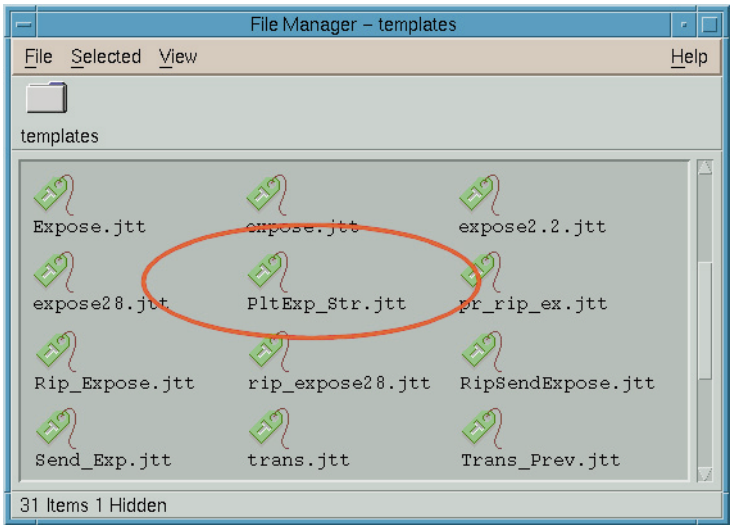
8. [Template Name]ボックスにテンプレートの名前「PltExp_Str」をタイプします。



9. <Save>をクリックします。このテンプレートは、ローカルBrisqueのTemplateフォルダに保存されます。このテンプレート用のPlate ExposeとStoreのパラメータは、面付けジョブをBrisqueで処理する前に設定します。☞P. 112、P. 123

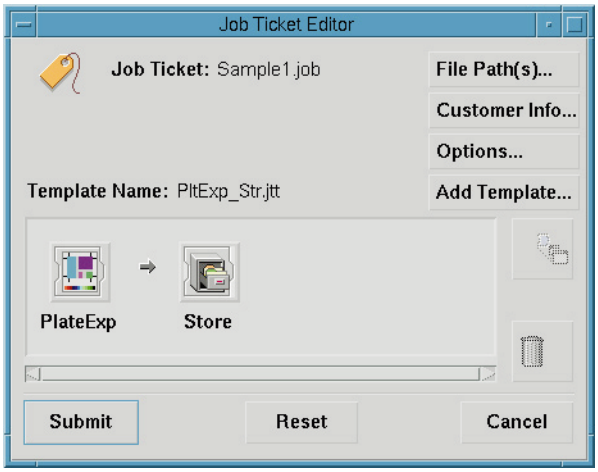
ジョブ(面付け、パッケージング、単ページのBrisqueジョブ)をテンプレートにリンクするには...

1. ラウンチパッドで[Automation Tools]パネルを開きます。
2. [Templates]アイコンをダブルクリックして[Templates]ウィンドウを開きます。先ほど作成したテンプレート「PltExp_Str.jtt」があることを確認してください。



3. [Templates]ウィンドウはデスクトップに開いておきます。
4. ファイルブラウザで処理する面付けジョブを見つけます。
   Previewで修正した面付けジョブファイルを見つけてください。この例ではSample1.jobを使用しました。

5. そのジョブアイコンを[Templates]ウィンドウの[PltExp_Str.jtt]アイコンへドラッグします。[Job Ticket Editor]ウィンドウが開きます。



これで、次に進む準備ができました。次の節では、Plate Exposeパラメータを設定します。

Plate Exposeパラメータの設定

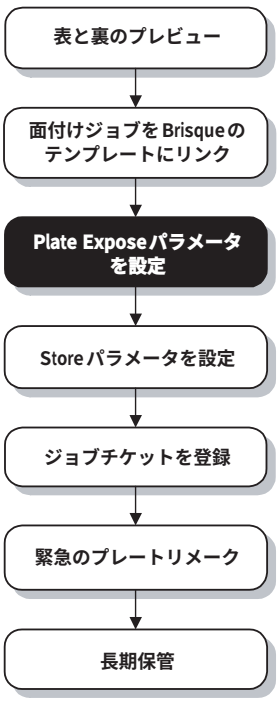


Plate Exposeパラメータでは、露光のポジ/ネガ、レイアウトの縦横反転、画像のオフセット、色版の扱い方など、本機でジョブを露光するための条件を正確に指定します。既定のプレスフォーマット、パンチシステム、プレートセット、スクリーンセットも選択します。この他に、プレート出力に適用するExcurveとトーンリプロダクションカーブを指定することもできます。

Plate ExposeはBrisqueの面付けジョブをサポートしており、Prepsなどの面付けアプリケーションで設定した画像の位置関係を保持します。

Plate Exposeパラメータを設定するには...

1. [Job Ticket Editor]ウィンドウで[PlateExp]アイコンをダブルクリックします。[Plate Expose]ウィンドウが開きます。

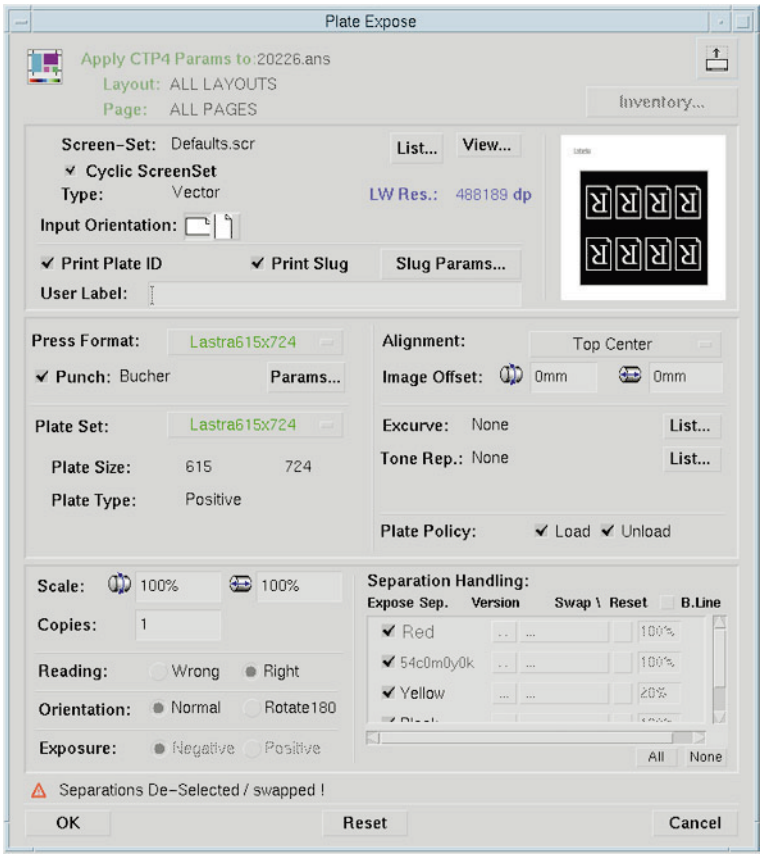
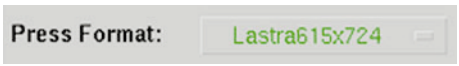


図21：本機での出力用の一般的なPlate Exposeパラメータ

参考： 上図のプレスフォーマットとプレートセットは一例であり、特定メーカーの製品を推奨するものではありません。本機はメーカー各社のプレートと印刷機に対応しています。

2. [Press Format]メニューで適切なプレスフォーマットを選択します。
   このリストにあるプレスフォーマットは、Devicesアプリケーションで設定したものです。☞第5章　デフォルトのプレスフォーマットは、前回にDevicesアプリケーションで選択したものになっています。



3. プレスフォーマットとプレートセットでプレートのサイズと厚さが一致していれば、プレスフォーマットの名前が緑で表示されます。両方でこれらのパラメータが食い違っていると、プレスフォーマットの名前が赤で表示されます。
4. [Punch]ボックスに現在選択中のパンチシステムが表示されます。



   ここに表示されるパンチシステムは、Devicesアプリケーションの[Punch System]パラメータで設定したものです。
   - このパンチを使用するには、[Punch]チェックボックスを選択します。
   - パンチシステムのパラメータを見るには、<Punch Params>をクリックします。パンチ関連のパラメータには[Plate Set] [Plate Size] [Exposable Area] [Punch System]およびサムネールがあります。デフォルト設定は現在のプレスフォーマットのパラメータを反映しており、Devicesアプリケーションから読み込まれます。
5. プレート上の基準点(0,0)を設定します。
   [Alignment]メニューで[Top Left]か[Top Center]を選択してください。

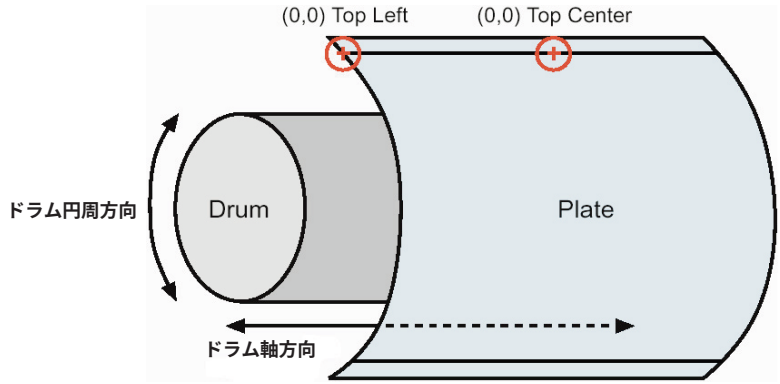
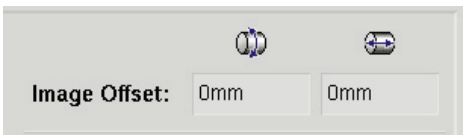


図22：プレート上の基準点(0,0)

6. **[Image Offset]ボックスで画像のオフセットを設定します。**
   このパラメータによって、プレート上のレイアウトが基準点(0,0)([Top Left]または[Top Center])から移動します。画像の露光はこの位置から開始します。



7. **オンラインモードでは、[Plate Set]ボックスに[Plate Expose]ウィンドウで選択したプレートセットが表示されます。[Plate Set]ボックスの下には、プレートセットのサイズとタイプが表示されます。**

参考：プレートセッタ、Brisque、PCコントローラ間の3方向接続が設定されると、オンラインモードになります。

参考：オンラインモードでは、プレートセットが表示のみになります。

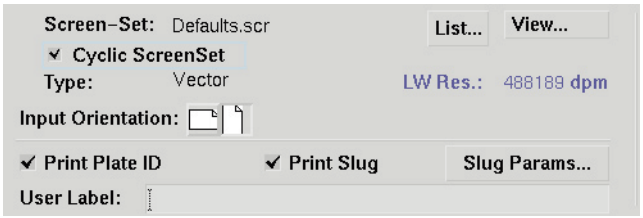


参考：上図のプレートセット名は一例であり、特定メーカーの製品を推奨するものではありません。本機はメーカー各社の様々な仕様のプレートに対応しています。

プレートセットとプレスフォーマットでプレートのサイズと厚さが一致していれば、プレートセットの名前が緑で表示されます。両方でこれらのパラメータが食い違っていると、プレートセットの名前が赤で表示されます。

ヒント： 各々のプレスフォーマットに専用のホットフォルダまたはジョブテンプレートを作成することをお勧めします。

8. [Screen-Set]ボックスには、現在選択中のスクリーンセットが表示されます。



- 他のスクリーンセットを選択するには、<List>をクリックします。
- Cyclic ScreenSet：特色にCMK版のパラメータを順番に割り当てていきます。例えば、ファイルにCMYKと5色の特色がある場合は、特色1にシアンのパラメータ、特色2にマゼンタのパラメータ、特色3にブラックのパラメータ、特色4にシアンのパラメータ、特色5にマゼンタのパラメータが割り当てられます。

スクリーンセットの詳細について☞『Brisque User Guide』の『プレート出力』と『Screening』の章

9. プレートIDを出力するには、[Print Plate ID]を選択します。

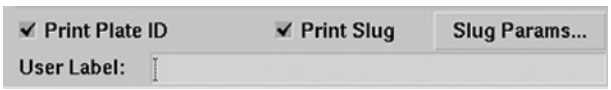


プレート出力するジョブには、専用のプレートIDがつきます。プレートIDは、専用番号(露光の日時などの情報)と拡張子(色版名)で成り立ちます。
Storage Managerアプリケーションの[Quick Re-Expose]を使用すると、印刷機の不調やプレートの破損が起きても、プレートを素早く作り直すことができます。この場合、Storage Managerはプレート IDに基づいてそのプレートを認識します。

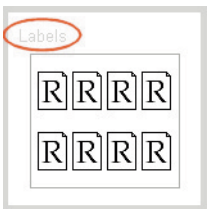
詳細について ☞P. 130『緊急のプレートリメーク』

プレートIDは常にスラグの左側に出力されますが、[CTP Slug Params]ウィンドウの[Offset]でオフセットを調整することができます。以下の手順を参照してください。

10. スラグ(日時およびジョブ、色版、フラット、スクリーンセットの名前)を出力に含めるには、[Print Slugs]を選択します。スラグはプレートの天の余白に出力されます。



11. [Print Slugs]を選択すると、右上の[R]アイコングラフィックの中に「Labels」と表示されます。



- <Slug Params>をクリックして[CTP Slug Params]ウィンドウを開きます。このウィンドウで出力するスラグを選択し、スラグのオフセットを設定します。
- スラグにコメントを追加するには、[User Label]ボックスにテキストをタイプします。

12. **[Excurve]ボックスには、現在選択中のExcurveが表示されます。Excurveは、網パーセントの変化に応じた補正をするキャリブレーションファイルです。**



- **別のExcurveを指定するには、<Excurve List>をクリックし、P. 65『Excurveによるキャリブレーション』でキャリブレートしたExcurveを選択します。**

参考： このパラメータは、必須ではありません。画像の露光はExcurveファイルなしでも行えます。

参考： Excurveの選択は、スクリーンセットに設定された露光条件とCalibrationアプリケーションで設定された[Excurve Auto Select]パラメータに従って、行ってください。

13. **[Tone Rep]ボックスには、現在選択中のトーンリプロダクションカーブが表示されます。**

トーンリプロダクションカーブの作成・修正について ☞ P. 86『トーンリプロダクション』

- **トーンリプロダクションカーブを指定するには、<Tone Rep List>をクリックして既存のトーンリプロダクションカーブファイルを選択します。**

参考： このパラメータは、必須ではありません。画像の露光はトーンリプロダクションカーブなしでも行えます。

14. **[Plate Policy]のオプションを選択します。**

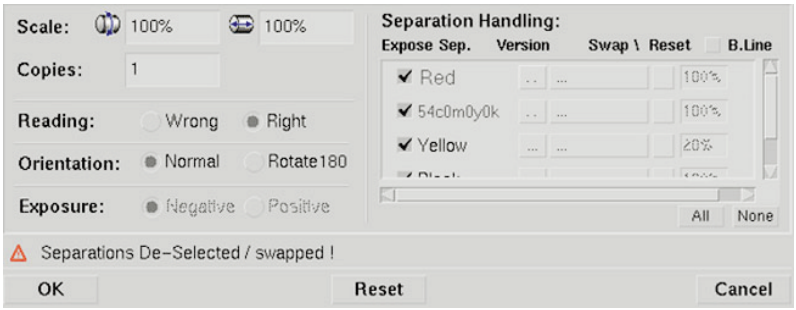


- **露光の開始前に新しいプレートを自動的にロードするには、[Load]を選択します。**
- **新しいプレートのロードを禁止するには、[Load]の選択を解除します。**
- **露光の終了後にプレートを自動的にアンロードするには、[Unload]を選択します。**
- **プレートのアンロードを禁止するには、[Unload]の選択を解除します。こうすると、1枚のプレートで何度も露光を行うことができます。**

参考：[LW Res]ボックスには、選択状態のスクリーンセットに設定されたLW解像度が表示されます。



15. 追加設定パラメータを表示させるには、<拡大>ボタンをクリックします。



16. レイアウトの露光サイズを変更するには、[Scale]ボックスでパーセンテージを設定します。縮小・拡大の範囲は95～105%です。デフォルトは100%(原寸)です。
17. レイアウトの露光回数を指定するには、[Copies]ボックスに数値を入力します。最大で10部を指定することができます。
18. [Reading]と[Orientation]を設定します。[Exposure]はプレートタイプに基づいて設定されるので変更できません。



19. [Separation Handling]によって、色版を選択して露光すること、各版のスクリーニングパラメータを入れ替えること、バージョンを合成することができます。

    Expose Sep：露光する色版を選択します。

    Version：ベース版と各バージョン用の追加版を合成します。バージョンの詳細について☞『Brisque User Guide』の『バージョニング』の章

    Swap：各版のスクリーニングパラメータを入れ替えます。

    B. Line：プレートにブルーライン(全版を合成)を露光します。各オプションの詳細について☞『Brisque User Guide』の『プレート出力』の章



20. 特定ページ/レイアウトのPlate Exposeパラメータの変更、および特定ページ/レイアウトの露光には、[Inventory]オプションを使用します。<Inventory>をクリックして[Inventory]ウィンドウを開きます。

詳細について☞『Brisque User Guide』の『プレート出力』の章

参考： <Inventory>が使用できるのは、Job Ticket Editorで複数のページ/レイアウトがあるジョブにPlate Exposeパラメータを設定するときです。

重要： 各ページに異なるスクリーンセットを指定することはできますが、その場合はすべてのスクリーンセットで解像度が統一されていることが必要です。

21. Plate Exposeパラメータの設定が終わったら、<OK>をクリックします。これで、[Job Ticket Editor]ウィンドウへ戻ります。
これで、次に進む準備ができました。次の節では、Storeパラメータを設定します。

プレート出力方向の設定

ここでは、プレートの出力方向を設定する手順を説明します。これには、[Plate Expose]ウィンドウにある以下のオプションを使用します。

- Reading
- Orientation
- Input Orientation
- Exposure

各パラメータとも自由に組み合わせて設定することができます。

これらの設定は、右上の[R]アイコングラフィックに反映されます。

Reading

[Right]はレイアウトを回転させません。[Wrong]はレイアウト全体を横にひっくり返します。

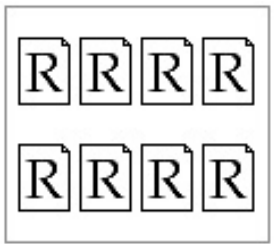


図23：Right

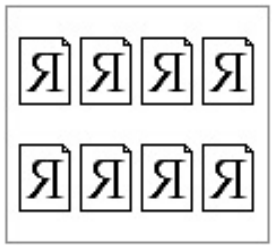


図24：Wrong

Input Orientation

画像を必要に応じて自動的に回転できるように、画像が横長と縦長のどちらであるかを指示します。

このオプションを表示させるには、[Plate Expose Preferences]ウィンドウ(Preferences → Output → Plate Expose)で[Allow Input Orientation Selection]チェックボックスを選択してください。

Orientation

プレート上の露光画像の方向を設定します。

Prepsで作成して本機で露光するレイアウトは、パンチとの位置合わせのため必ず180°回転させます。デフォルトでは[Orientation]が[Rotate 180]になっています。

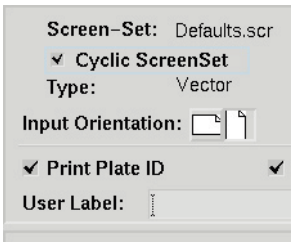
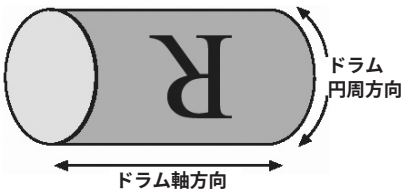


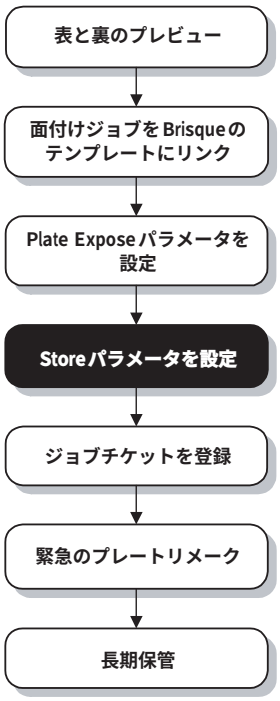


図25：[Orientation]＝[Normal]



[Orientation]＝[Rotate 180]

Storeパラメータの設定



ここでは、ジョブのエレメント(RIP処理前のオリジナルファイル、RIP処理後のファイル、プレートマークファイル)を各種のモードで保管するため、ジョブチケットのStoreパラメータを設定する手順について説明します。

最初は、ジョブをOn Pressモードで保管します。このモードでは、プレートの破損などによる緊急のプレートリメークに備えて、各ファイルを待機させます。ジョブ全体の露光が完了したら、保管モードをLong Termに切り替えます。

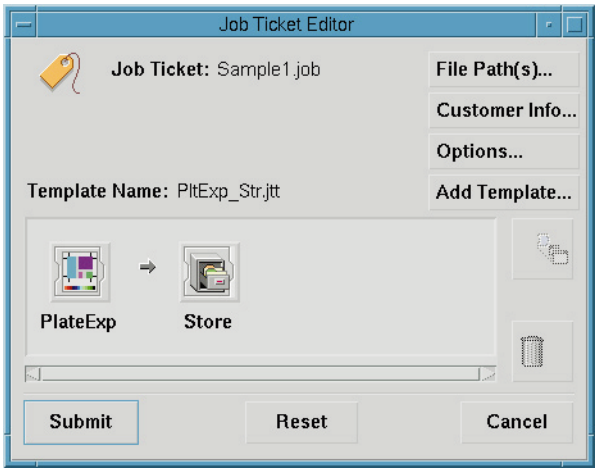
On Pressモードの一般的な期間は、数時間から数日です。Long Termモードまたはワークフローの次工程に進めるまで、ジョブは保留状態になります。

Long Termモードでは、それ以上の処理が不要な完成したジョブを保管します。このモードで保管されているジョブには、Brisqueの通常のオペレーションは実行できません。

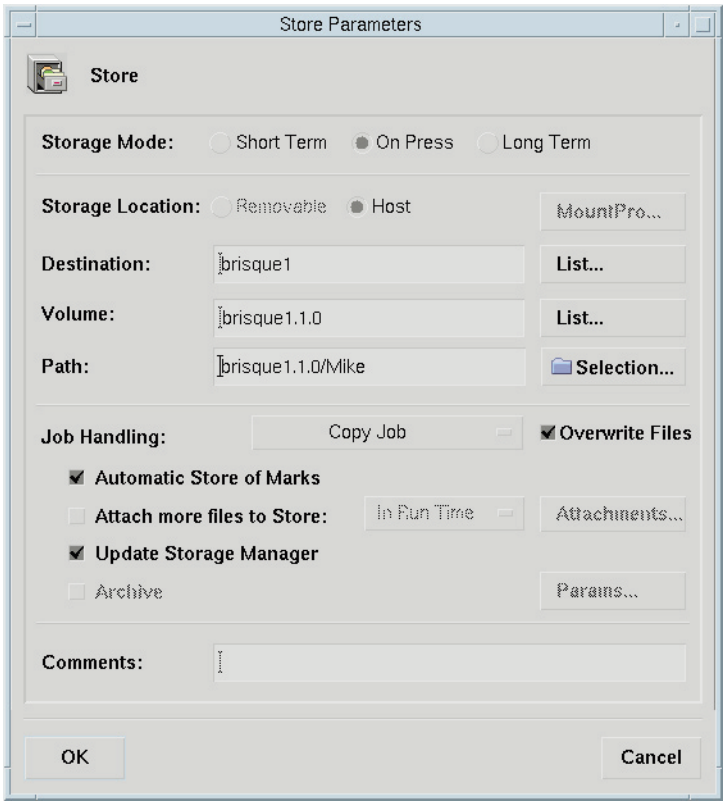
重要：[Quick Re-Expose]を実行できる保管ジョブは、少なくとも一度Exposeが完了したジョブです。

Storeパラメータを設定するには...

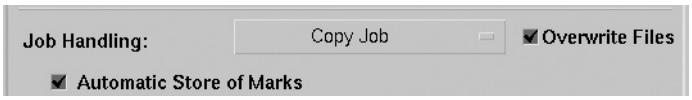
1. [Plate Expose]ウィンドウを閉じると、[Job Ticket Editor]ウィンドウへ戻ります。



2. [Store]アイコンをダブルクリックして[Store Parameters]ウィンドウを開きます。



3. [Storage Mode]と[Storage Location]のパラメータは、テンプレートの作成時に設定してあります。☞ P. 106 ここでは、それ以外のStoreパラメータを設定します。
4. Storeオペレーションでのジョブの扱い方は、[Job Handling]のオプションで設定します。ジョブエレメントを指定の送付先へコピーまたは移動します。



Copy Job	**ジョブの全エレメントを指定の送付先へコピーします。オリジナルのジョブファイルは、発信元にそのまま残ります。**
Move Job	**ジョブを指定の送付先へ移動します。各ファイルをまず送付先へコピーし、次に発信元から削除します。** **面付けジョブのページおよびCT/LWファイルは、送付先へコピーするだけで発信元から削除しません。こうしたファイルを自動的に削除するには、[Move Job and Original Pages]オプションを選択します。**
Move Job and Original Pages	**面付けジョブを移動します。[Move]と違い、面付けジョブの全内容をコピーした後に、ページおよびCT/LWファイルを発信元から削除します。**
Overwrite Files	**送付先にある同名のファイルを自動的に新規ファイルで上書きします。このオプションを選択しなければ、同名のファイルが認識されたときにStoreオペレーションが中断します。**



参考： [Copy Job]と[Move Job]は、[Attach more files to Store]オプションで選択したファイル/マークにも実行されます。

参考： [Automatic Store of Marks]オプションは、現バージョンでは使用できません。

5. 保管ジョブにRIP処理前のオリジナルファイル(PDF/PostScript)やマークファイルを添付するには、[Attach more files to Store]オプションを使用します。



   - [Attach more files to Store]チェックボックスを選択します。
   - メニューリストをクリックして[In Run Time]を選択します。<Attachments>は選択不可になります。Brisqueのワークフローの途中でStoreオペレーションが開始すると、Plate Expose終了時に添付するエレメントを選択するように求めてきます。
6. Brisque上のStorage Managerデータベースを更新するため、[Update Storage Manager]を選択します。
7. Storeパラメータの設定が終わったら、<OK>をクリックします。これで、[Job Ticket Editor]ウィンドウへ戻ります。
   これで、次に進む準備ができました。次の節では、ジョブチケットをBrisque上で処理するため登録します。

ジョブチケットの登録

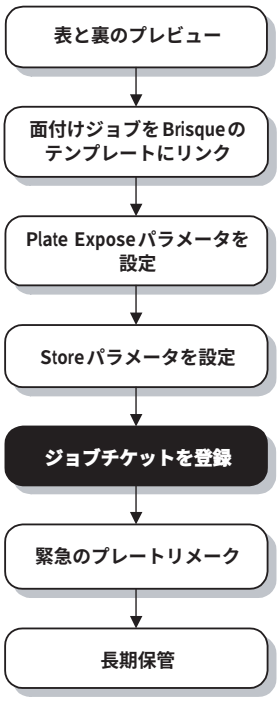


Plate ExposeとStoreのパラメータ設定が終わったら、そのパラメータを含むジョブチケットをBrisqueのQueue Managerに登録します。

ジョブチケットを処理のため登録するには...

1. **[Store Parameters]ウィンドウを閉じると、[Job Ticket Editor]ウィンドウへ戻ります。**
2. **<Submit>をクリックしてジョブチケットを転送します。現在のテンプレートに従い、ジョブチケットの先頭工程はPlate Exposeになっています。**

   参考： プレート装填手順およびBrisqueに表示される指示に従ってください。☞第4章
3. **ラウンチパッドで[Queue]アイコンをダブルクリックしてQueue Managerを起動します。[Queue Manager]ウィンドウが開いて、Plate Exposeの進行状況を確認できるようになります。**

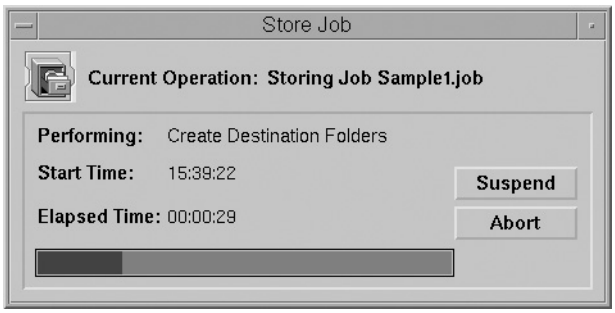
   参考： Queue Managerの詳細について☞『Brisque User Guide』の『Queue Manager』の章
4. **Queue Managerは現在処理中のジョブについて、以下の情報を表示します。**

Now Running	**ジョブの名前**
Current	**ジョブに対して実行中の工程**
Start Time	**ジョブの開始日時**
Next	**ジョブの次工程**

5. [Queue Manager]ウィンドウを拡大するには、右上の<拡大>ボタンをクリックするか、<スペースバー>を押します。
   拡大したQueue Managerは以下の項目を表示します。
   - 処理待ちのジョブ
   - 保留のジョブ
   - 失敗したジョブ
   - 完了したジョブ
6. Plate Exposeが完了すると、Storeが自動的にOn Pressモードで開始します。
   [Store Parameters]ウィンドウで[Attach more files to Store]オプションを[In Run Time]に設定したので、添付するファイルとマークの場所を指定するように求めてきます。
   添付するエレメントを選択すると、該当するファイルとマークが発信元から送付先へ保管されます。
   ジョブエレメントの保管場所は、[Storage Location]で設定したパス上のフォルダです。このフォルダは、「ジョブ名_発信元Brisqueステーション名.拡張子store」という名前で作成されます。例えばジョブ「Sample1.job」は、「Sample1.job_ Brisque1.store」というフォルダに保管されます。

また、ファイルとマークを添付することになっているので、このフォルダ内にそのためのサブフォルダが1個ずつ作成されます。

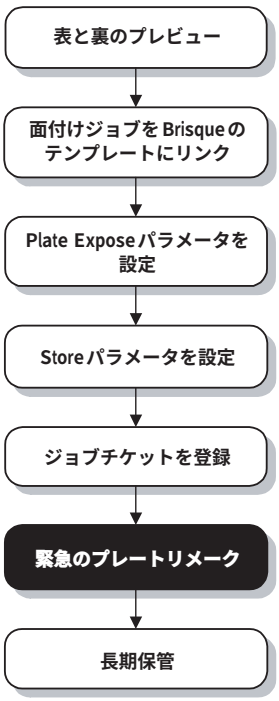
Storeの進行状況は、[Store Job]ウィンドウで確認することができます。



7. Storeが終了すれば、Brisque上でのジョブチケット処理は完了です。

次の節では、[Quick Re-Expose]オプションで緊急のプレートリメークを実行します。

緊急のプレートリメーク



この時点で、ジョブはBrisqueのデータベースにOn Pressモードで保管されています。☞ P. 123『Storeパラメータの設定』　プレートが破損した場合は、Storage Managerの[Quick Re-Expose]オプションで各版を転送して、プレートを素早く作り直すことができます。

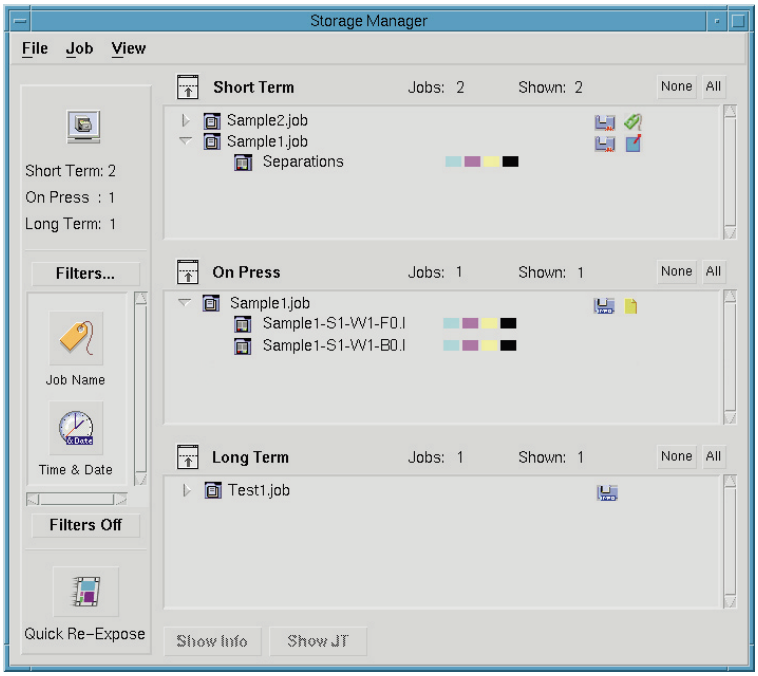
[Quick Re-Expose]が実行できるのは、ジョブが以下の条件をすべて満たす場合のみです。

- On Pressモードで保管されている
- 少なくとも一度Plate Exposeが完了している
- 全エレメントがローカルBrisqueボリュームに保管されている

Storage Managerアプリケーションには、データベース上のジョブファイルを監視・管理する各種のオプションがあります。詳細について☞『Brisque User Guide』の『Storage Manager』の章

[Quick Re-Expose]でプレートリメークを実行するには...

1. ラウンチパッドで[Management Tools]パネルを開きます。[Storage]アイコンをダブルクリックして[Storage Manager]ウィンドウを開きます。

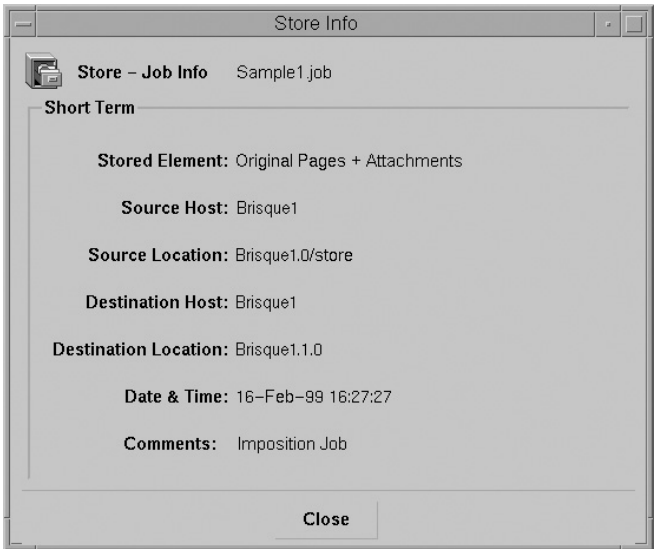


[Storage Manager]ウィンドウには、ジョブが保管モード([Short Term] [On Press] [Long Term])別に表示されます。

2. [On Press]パネルで[Sample1.job]を選択し、<Show Info>をクリックして[Store Info]ウィンドウを開きます。



3. [Store Info]ウィンドウには、ジョブ名や保管モード以外に様々な情報が表示されます。確認が終わったら<Close>をクリックします。



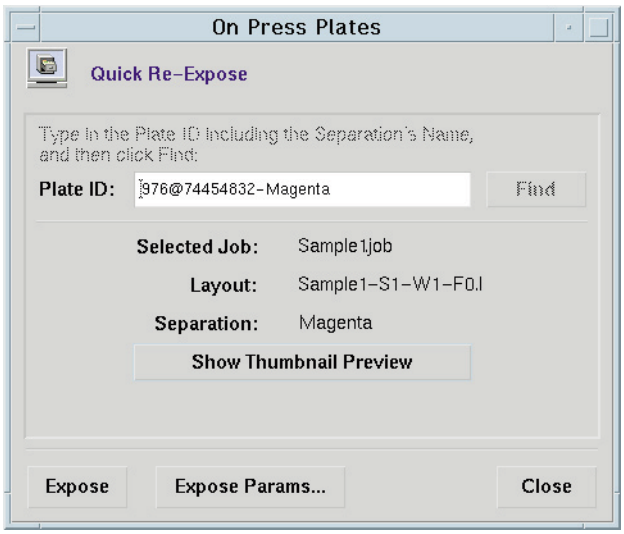
4. [On Press]パネルで[Sample1.job]の左側の三角をクリックして、ジョブのレイアウトと色版を表示させます。



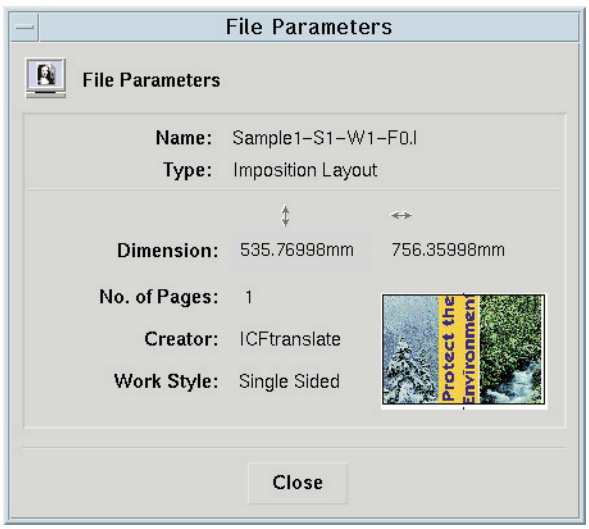
5. 最初のレイアウトのマゼンタ版のボックスをダブルクリックします。



[On Press Plates]ウィンドウが開き、マゼンタ版のプレートIDとレイアウト情報を表示します。



6. ファイルの詳細情報とレイアウトのプレビューを見るには、<Show Thumbnail Preview>をクリックします。

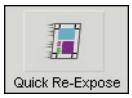


7. 確認が終わったら<Close>をクリックします。
8. 既定のPlate Exposeパラメータで色版を再露光するには、[On Press Plates]ウィンドウの<Expose>をクリックします。

ジョブが条件(☞ P. 130)を満たしていないためプレートリメークが実行できない場合は、処理が中断してエラーメッセージが表示されます。

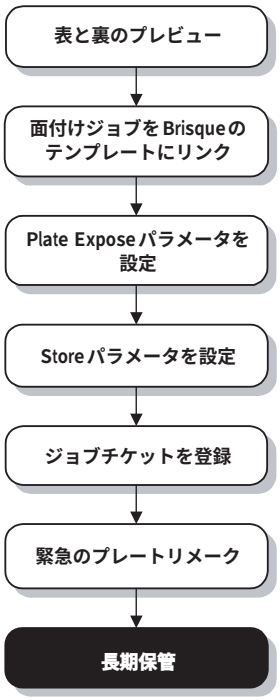
再露光の前にPlate Exposeパラメータを変更するには、<Expose Params>をクリックします。

別法



➢ プレートリメークには、[Storage Manager]ウィンドウ左下の[Quick Re-Expose]アイコンをクリックする方法もあります。ただし、この場合は、[On Press Plates]ウィンドウで色版のプレートIDを別途に入力することが必要です。

ジョブの長期保管



プレートリメークが正しく行えたら、ジョブの保管モードをOn PressからLong Termに切り替えましょう。

Long Termモードでは、それ以上の処理が不要なジョブファイルを収集して長期保管します。このモードで保管したジョブは、全エレメントを引き出してBrisqueボリュームに入れるまで、再処理できません。

保管中の各ジョブについては、Storage Managerアプリケーションがログファイルを保持します。ログファイルには、ジョブ全体の送付先と保管の日時が記録されます。ログファイルの保管場所としては、ローカル/リモートのBrisqueボリューム、Jazディスク、サーバなどがあります。ジョブと付属エレメントの保管場所は、Storage Managerのログファイルで瞬時に検索することができます。

参考： ジョブの保管モードを変更するときには、各々のモードの特徴に注意してください。詳細について☞『Brisque User Guide』の『Storage Manager』の章

ジョブの保管モードを変更するには...

1. Brisque上でStorage Managerを起動します。
2. [Storage Manager]ウィンドウの[On Press]パネルで[Sample1.job]を選択します。

3. **[Job]メニューで[Move to Long Term Mode]を選択します。保管場所を変更するかどうか尋ねてきます。**



参考：このときに変更できるパラメータは、ジョブの保管場所だけです。添付ファイルやジョブハンドリングのパラメータは変更できません。

- **保管場所を変更するには、<Yes>をクリックします。[Store Parameters]ウィンドウが開き、ジョブの保管場所を変更できるようになります。**
- **現在の保管場所でよければ、<No>をクリックします。**

4. **ジョブが指定の保管場所に保管され、[Storage Manager]ウィンドウでジョブの保管モードが更新されます。**

A メンテナンス

合紙の処分 138
パンチかすの処分 140
ドアをマニュアルで開く 141
詰まったプレートの取出し 143

合紙の処分

本機で使用するプレートには合紙がはさまっています。合紙はプレートをドラムにロードするときに自動的にはがれ、排紙ユニットにたまっていきます。

排紙ユニット内のセンサーはPCコントローラのカウンターと連動しており、ここでドラムにロードしたプレートの枚数を数えるようになっています。カウンターが一定数に達したら、排紙ユニットを空にすることが必要です。これでカウンターが0に戻ります。

排紙ユニットの空きが小さくなると、メッセージウィンドウに警告メッセージが表示されます。通常はこの段階で合紙を取り除きます。そのまま処理を続行して排紙ユニットがいっぱいになると、本機がPROBLEMモードになって停止します。



- ステータスインジケータの表示が[ATTENTION]になります。
- メッセージウィンドウに「合紙を取り除いてください」という意味のメッセージが表示されます。

排紙ユニットを空にするには...



重要： 排紙モーターの作動中は、排紙ユニットのドアを開かないでください。このようにすると、故障の原因になることがあります。

1. 排紙ユニットの右か左のドアを開きます。☞ P. 139の図　これで本機がSERVICEモードになり、排紙モーターのインターロックがONになります。
2. 合紙を取り出します。
3. ドアを閉じます。
4. 本機はSERVICEモードになっているので、メッセージウィンドウの<Reset>で本機をリセットしてください。その後、[Reset Confirm]メッセージで<Yes>をクリックします。

ステータスインジケータは、以前の状態に応じて[READY] [OFF-LINE] [WORKING]のどれかに戻ります。



図26：排紙ユニットの右側ドア

パンチかすの処分

本機に内蔵のパンチシステムは、プレートのセンタリングが終わりドラムにロードされるまでの間に、プレートに穴を開けます。そのときの残り屑は、パンチコンテナにたまっていきます。コンテナの空きを感知するセンサーはないので、定期的にチェックして残り屑を取り除いてください。その間隔は本機での処理量によって異なります。



参考： パンチコンテナは2つに分かれており、左右の残り屑を別々にためるようになっています。両方をチェックして空にしてください。

パンチコンテナをチェックして空にするには...

1. メインオペレーションメニューで<Stop>をクリックします。これでドラムその他の機械動作が直ちに停止し、 プレートは現在位置に止まります。
2. [Routine Functions]メニューで<Open Front Door>をクリックするか、オンラインマシンビューでフロントドアをクリックします。
   ドアを開くと、レーザーとドラムのインターロックがONになります。ステータスインジケータは[SERVICE] (紫)に切り替わり、その下にインターロックインジケータが表示されます。
3. フロントドアのロックが30秒間外れます。この間にドアを少し押し下げてください。
4. その後、ドアを持ち上げて全開にします。
5. 本機の左右から内側をのぞき込み、パンチコンテナの両側に残り屑がどれほどたまっているかチェックします。コンテナの空きが小さければ、残り屑を取り除いてください。
6. 本体の底部にある左右の穴の下に適当な箱を置きます。
7. パンチコンテナの左右の穴を開けて残り屑を箱に入れます。
8. パンチコンテナの穴を閉じます。
9. 残り屑を処分します。
10. [Routine Functions]メニューで<Reset Machine>をクリックします。[Reset Confirm]メッセージで<Yes>をクリックします。

ステータスインジケータは、以前の状態に応じて[READY] [OFF-LINE] [WORKING]のどれかに戻ります。

ドアをマニュアルで開く

通常、ドアの開閉はPCコントローラアプリケーションの<Open Front/Rear Door>でコントロールします。ただし、ドアをマニュアルで開かなければならない場合もあります。例えば、アプリケーションがフリーズしてしまい、内部に詰まっているプレートを取り出したい場合などです。

フロントドアを開くには...

➢ 下図のように、ドライバーをフロントパネルの2カ所の穴に差し込みます。これでフロントドアのロックピンが外れ、ドアが開けるようになります。



図27：フロントドアをマニュアルで開く

リアドアを開くには...

1. ドライバーをフロントパネルの2カ所の穴に差し込んでフロントドアを開きます。
2. 左右のドアを開きます。
3. 細いドライバーを使用してリアドアを開きます。

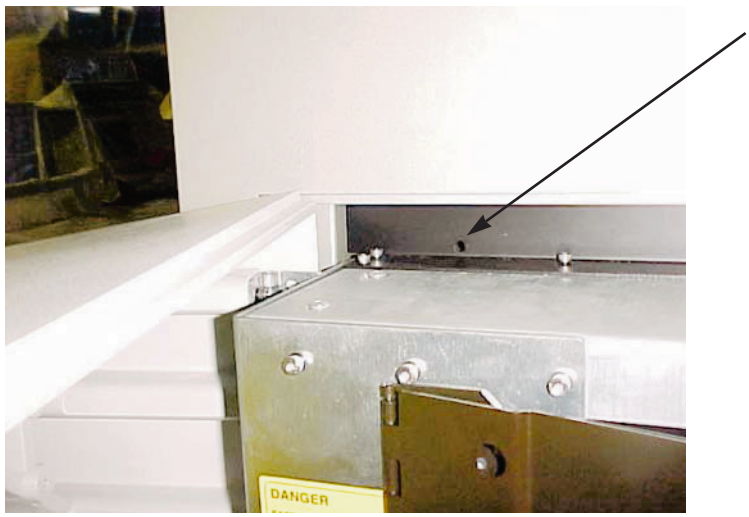


図28：リアドアをマニュアルで開く

詰まったプレートの取出し

ここでは、本機の内部に詰まったプレートを取り出す手順を説明します。これには特に注意が必要です。



警告： プレートの端は鋭利なので、素手で触れないでください。プレートのハンドリングに際しては、手袋を着用してください。

プレートが詰まる段階としては、プレートのセンタリングとパンチング、ドラムへのロードとアンロードが考えられます。

各段階がプレート詰まりで中断すると、メッセージウィンドウにエラーメッセージが表示され、ステータスインジケータが[ATTENTION] (赤)に切り替わります。プレートが詰まっている場所とプレートを取り出す手順は、エラーメッセージでわかります。

プレートを取り出すときの注意事項

- プレートは切断せずに1枚のまま取り除いてください。
- 取り出したプレートは再利用せずに破棄してください。

センタリング/パンチング時のプレート詰まり

1. [Routine Functions]メニューで<Open Front Door>をクリックするか、オンラインマシンビューでフロントドアをクリックします。ドアを開くと、レーザーとドラムのインターロックがONになります。
2. フロントドアのロックが30秒間外れます。この間にドアを少し押し下げてください。
3. その後、ドアを持ち上げて全開にします。
4. 本機の内側をのぞき込んでプレートを見つけます。
5. 手袋を着用し、プレートの上端(ドラム側)をつまんで引き出します。
6 取り出したプレートを処分します。
7. [Routine Functions]メニューの<Reset Machine>で本機をリセットします。

ステータスインジケータは、次のプレートがあれば[READY] (青)か[WORKING] (緑)になり、次のプレートがなければ[OFF-LINE] (灰色)になります。

ロード時のプレート詰まり

プレートをドラムにロードするときにテールグリッパーのテストが失敗することがあります。

1. [Routine Functions]メニューで<Open Rear Door>をクリックするか、オンラインマシンビューでリアドアをクリックします。ドアを開くと、レーザーとドラムのインターロックがONになります。
2. テールグリッパーをプレートから離します。
3. ヘッドグリッパーが見えるようになるまでドラムを慎重に回転させます。
4. ヘッドグリッパーのクランプを1つずつ押して、ヘッドグリッパーをマニュアルでONにします。
5. これでプレートが外れ、取り出せるようになります。手袋を着用してプレートを引き出してください。
6. プレートを処分します。
7. [Hardware]ウィンドウでヘッドグリッパーをOFFにします。
8. テールグリッパーをプレロードポジションへ移動させます。
9. 本機をリセットします。
10. [Hardware]ウィンドウで[Loading system]ディレクトリを開き、[Loading system]をダブルクリックします。[Loading system]ウィンドウが開きます。
11. [Loading system]ウィンドウで<Restart Plate State>をクリックします。
12. <Pre-load>をクリックして、テールグリッパーを所定のプレートサイズに合った位置まで移動させます。

ステータスインジケータは[READY] (青)に切り替わります。

アンロード時のプレート詰まり

1. [Routine Functions]メニューで<Open Rear Door>をクリックするか、オンラインマシンビューでリアドアをクリックします。
2. リアドアのロックが30秒間外れます。この間にドアを少し押し下げてください。
3. その後、ドアを持ち上げて全開にします。
4. 本機の内側をのぞき込んでプレートを見つけます。
5. 手袋を着用してプレートを引き出します。
6. 本機をリセットします。
7. プレートを処分します。

ステータスインジケータは、[READY] (青)、[WORKING] (緑)、[OFF-LINE] (灰色)のどれかに切り替わります。

索引

【英語】

A-B

ATTENTION 16, 25
Brisque 5
  console login 10
  一般的なワークフロー 100
  シャットダウン 12
  リセット 12
  ログアウト 11
  ログイン 10
Brisque Impose 2

C

Cassette Configuration 23
[Cassette Setup]メニュー 17
[Current Cassette]ウィンドウ 37

D

[Define User]ウィンドウ 22
Diagnostics 21

E

Excurve
  AutoSelect 80
  ワークフローにリンクする 79
Excurveによるキャリブレーション ....65～85
[Expose Info]ウィンドウ 20
Expose Params 20
[Expose queue]リスト 20

H

Hardware 21
Help 20

L

Language 23
Loading System 18
Log Files 20
[Log message]ウィンドウ 20
[LW Res]ボックス 119

M

Machine Info 21
[Machine task]リスト 20
Media Definitions 22
[Media Definitions]ウィンドウ 29
[Media Parameters]セクション 30
Messages 19

O

OFF-LINE 16, 20
Offline Cassette 19
On Line 20
ON/OFFプッシュボタン 4
Open Front Door 18
Open Rear Door 18
[Output Devices Handling]ウィンドウ 44

P

PCコントローラ
  バージョン情報 21
  ユーザーインターフェイス 15
PCコントローラモニタ 5, 14
[Plate Expose]ウィンドウ 41
Plate Exposeパラメータの設定 ....112～122
[Plate Set]ボックス 115
Preferences 23
Preps 102
Preview 100
  表と裏のプレビュー 102
  折丁エレメントの見当合わせ 102

Q

Queue Manager 127
Quick Re-Expose 108, 130
  [On Press Plates]ウィンドウ 132
  Plate Exposeパラメータの変更 134

アイコン.....134
再露光.....133
プレートID.....117, 132

R

READY.....16
Reset Machine.....20
Res.Intensityによるキャリブレーション.....65
[Routine Functions]メニュー.....17

S

[Screen-Set]ボックス.....116
Separation Handling.....120
SERVICE.....16, 24
SERVICEモード.....25, 138
[Setting]メニュー.....22
Shut Down.....20
START UP.....16
<Stop>ボタン.....23, 140
Storage Manager.....100, 130～136
Store.....100, 123～129
[Store Info]ウィンドウ.....131

U-W

Units.....23
Unload Media.....18
Users.....22
User Type.....22
[Utilities]メニュー.....20
WORKING.....16

【日本語】

あ行

合紙の処分.....138
インターロックインジケータ.....24
インタラクティブな操作.....25
エラーメッセージ.....19
オペレーションメニュー.....17
折丁.....102
オンラインマシンビュー.....24
オンラインモード.....115

か行

カセット
　挿入.....35
　引出し.....25, 31
　開く.....33
　プレートの装填.....32
カセット挿入口.....35
　ピン.....31, 35
画像エリア.....40
気圧ゲージ.....8
キャリブレーション
　Excurve.....118
　トーンリプロダクションカーブ.....118
緊急停止.....23
グラビア印刷向けのカーブ作成.....96
くわえしろ.....40
コンベア.....5

さ行

システム構成例.....5
自動現像機.....5
主電源サーキットブレーカー.....4
ジョブチケットの登録.....127
シングルカセットの使用方法.....31
スクリーンセット.....116, 118
ステータスインジケータ.....16
スラグ.....117
セーフティインターロック.....24

た行

通信とデータフロー.....6
詰まったプレートの取出し.....143
テールグリッパー.....144
テンプレート.....69, 100, 106〜110
トーンリプロダクション.....86〜98
ドットゲイン.....86

は行

パンチかすの処分.....140
パンチコンテナ.....140
フラット.....102
プレート
　合紙の処分.....138
　カセット内の枚数.....38, 40
　削除.....31
　仕様.....28
　装填.....32
　高さ.....41
　名前の変更.....31
　幅.....41
　パラメータ.....29
　パンチかすの処分.....140
プレートID.....117, 132
プレートガイド.....33
プレート各部のサイズ.....40
プレートスタッカー.....5
プレート排出口.....4
プレスフォーマット.....114
　アプリケーションの起動.....58
　削除.....64
　変更.....63
プレヒートオーブン.....5
ヘッドグリッパー.....144
ホームポジション.....16
本機の設定.....48

ま〜や行

膜面.....41
メインウィンドウ.....15
　カーソルを合わせた状態.....25
メッセージウィンドウ.....19
メディアの設定.....28
面付けジョブ.....100, 102
ユーザーインターフェイス.....15



クレオジャパン株式会社
●Visit our Internet web site at http://www.creo.com

〒170-0013　東京都豊島区東池袋1-17-8　池袋TGホーメストビル
TEL. 03-5954-9050 (代)　FAX. 03-5954-9055